吾妻紀行

ル 3
1661

ル呂3
1661

明治四十一年七月一日
執り弘道氏寄贈

吾妻紀行序

哥枕のおもくさいぶんのたるを主とするへしと
まるおもひて主とせしかとも今は東路はるかに
西海おもむくふるくよりのこるもおほくしかはいまだ
ひろひうるをもとかとい白毫玉紙つゝをいとに
おもうるのそれをさうもとに同よりあやしくぶふ
妙あるとなしし。于嵗海山里すゝ眺あり故也

たつ山あり紙も。富の根ぢくかゝむもおこるまゝ。
ゆゝしてさえ此紙はよろ。芦乃一ぬゝよりて。
おいさきよんえ。いてやあ弱。新康の妙も
しるこの奇。新紀や。あのまゝつむ富士の雪ふる。
男子此海土乃土ともも。秋燒塩のかゝる煙も
さきゝて。の紙よ事紙ゆたり。ぢとう。見紙
けゝひの皮。のまとよの有り

五吾妻紀行

三條橋 山州賀茂川ノ流也　大津ハ三里

わかよふれ。ゆる紙幸ふ波乃白ゆふ云あつぢ。先。乃
祖神紙ぬうぢく。ぢ橋のよりわ眺ぢ。小色ぢ
海山たゝうて。賀ふ。ぢ。ぢ乃ぢ
わくすわて。又。新の富士といるとんれぢ。彼。の
面影。ひ。ふかよひく。心もうゝあり。ぢ敵乃禁
なる雲紙。八紙とふ。ぢ。ぢ。ぢ川乃。流ぢ。ぢ。

○高野川となる。又。高野川のもとより西ふりんゆる
小山と○松ヶ崎といふ○狐坂の奥より○岩倉に花堂
○長岩乃御所ゆる。彼○賀茂川○こる聖川○乱川
ひとつに落合ふく○荒神川系とゆる又○如意ヶ
嶽乃下ゆ○神楽岡○吉田○園崎○新黒谷
○法然院康ヶ○光雲寺○若王寺○白川乃流れ
よりこゆるとて○四條河原乃上ゆ和橋より落。彼○
鴨川○二條河原乃系ゆ流れ
万無寺ゆ云

○五條の橋。ゆくく○名羽小枝の橋より東の果ハ
○淀川より入なる又○白毫院○祇園○丸山○吉野
○双林寺○弓葉寺○八坂○霊山○清水ぢ橋の巽より
尚ゆくと。南ハ○豊宮寺○二条婆羅○大佛殿○今熊野
○泉涌寺○稲荷○源菓子○木幡○茨森伏見
○北ハ賀茂○紀森川
名所かもやいろ〳〵人とゝぶ紀乃久ゝき世ゝ哉ゝく詠 宣家
芳木 風吹も紀の川よ高浪乃久ゝもゝうけて波ゝとそする 家宣

拾遺
○赤山○神宮寺○長谷寺 ○吉田
久ゝよ為てゝ吉田乃里ゝ杖なれ行くとゝ君ゝ為代 兼盛
支木 吉田賀乃ゝ孫ゝも松いわゝ孫ゝも君ゝ為代 兼盛
散木 炉薪と心よかゝて思ふ乃あゝ一ぢ祇園ゝ思ふ
○祇園 南東 牛頭天王 素盞嗚也 才二八王子 才三少彦井
玉葉 ゝ早根祇の業ゝ乃姫小雲ゝ乃代ゝ哉 めなゝ乃 頃衡
拾遺 六月やたゝぬ祭ゝ乃れ乃ゝ祇の業生ハ 兼信
○八坂

古今
秋の代乃へ板は雲絶ゆ
わが君ぞ世幾へぬ
○清水　山寺滝

拾玉
くりくへ流て人と浸とのゝ清みなる乃滝のたゝ〻糸　慈鎮

家集
清みれ山郭公ゆきまい
一宗物
ふてよりの水をゆく滝乃糸いとぐるまもぬ　永源

文永
とゝろくさるかくめふ妹ゆ
拾玉集
月の色も嵐も高色清みな乃滝よ激ゆふ花の白波　内海民　宗恵
白川橋より。南をゆくれば恩院。

○蓮華院御門跡。庚申堂。慈恵大師の法堂ま
た。たの方に悪魔除。南禅寺。もゝ下。栗田と
ゆう。陶乃名物なり　素人新素焼　○松坂　油角
ぎゝく。東山乃禁。日の岡。いとゝ聖子明かり
の御所。伝教大師ゆかさめとゝ。今。蓮華
よ南しまとゝ。東山と。日のゆとゝ。その林廉
なりゝく。宮城ゆゝ。日の岡とゆふ。又日乃山とは。
神明御座の社あまてゝ。清和天皇大

神宮院。山下。栗田山のぶもとをよりたしまつり
とるん

六帖 栗田山ち四ともこゆと思へとあれ逢坂もはるけりるとと

赤根法師

○山科　南ハ琵琶湖。歌枕。名所。

御廟の聖人。天智天皇のぶくぶ松
あてり。大津の宮よりわ嶺乃出るかめ。そよのぼ
ま。ひくぶ。そのぶ。のぶ山より嶺ぶ。ぶりあり。
とゝ。樒ま。華ち表あてり。又貴船山。むろひよりて

いとくるる

○吉野山川　奥ま牛ノ尾ちるみ。清あるノ
奥ノ流トとり

千代 タ立ハ吉野山科の奥。時ふく吉野よりなびく。ほそ乃宮為丹

玉明 吉野川せきいるとぬ池も。月ま小蓮。吉野ハ滝。名所。家藻

摂津国 ○牛尾

摂津国 峯ちる牛尾の山ま人ぶと。米車ふくぶりなりとり頭巾

ひ山科乃。雲ゆけ。数の下ぶいふ小星ち川わり

○四位ノ宮川　徳和大明神社座故知ル

明まろ四の文は京雲かくれなき方への根そなへ々る筆法
十禅ぜんじ師ハ四の文村のわらとまり。本尊観世音ハ
聖徳太子乃作し明暦の比
本院御所は再興なりと或人云り和よ法花堂
六地蔵ノ内なり 約ハ。たゝ。後四位諸羽大内弟と記し為る額
あり。鳥居立く。京是居ば奥よ内庭。是ハ。大玉
今乃高野なりと云り。ちまと銭。四位京とおもはる
○追分ハ京都伏見 ○大岩 ○走井 さゝふあり

於き
さゝつ野の宿を紛ぢや逢坂の関引あるゆふげ九弱 元補

後於き
相坂の関とゝいへど竜野の水とゝえそこそめざやとろ 陸川大改大臣

○逢坂 関 清水 関小川

くゝ関おくりと。吉野の滝。袖よりあくれば小川乃
柳。糸我すゝの緑く。眼我はゝぬくるや。猿丸すゝうゆ
ほきり。猿丸のまゝやの跡。山上よりゝ猿丸の事
延喜帝四の皇子なるゝ。むゝくらとろ。恵服か
ゐべさう。唯乃人あつゝ。山所よ逢ふ住るぬべし

笠木
命坂乃関ゝ嵐のゝ。ゝ坂ふあるそ居ゝ世ゝ拾ん 猿丸
捨逢
逢坂乃関の清水よ新乃えゝていやゝ引ん年月の跡 貴之
金葉
吉野山お祭殺し金坂の関ゝ小川よ鶯とゝく 俊頼
あゝたのめ東路ゝ我くわゝふゝもあゝ三ゆゝ逢坂ゝあと長嘯
さいゝ比逢坂と越ゝよゝ三雁あゝゝ我れど
逢坂の関乃小川も泊よ逢ゝ三ゝ波ゝゝ秋乃初風
○関寺
いゝ波ゝ小蓋東我ゝもゝる関ゝい乃乃ゝゝゆゝゝ関ん 衣笠

一大津　江州　草津より三里八町

昔大津京を。天智天皇の皇居の地なりぬ。赤
出の浜より見れば。風波てさゝ波。花咲渡ひ。雪残
さゝなる。月を待る。浜山より漕く。神々三井山より夫降ハ
見におさなき富士嶽やひ東ハ山田。矢橋。小もと
沖浦入こゝ。堅田。はらへ。ひ忌れ蓼よハ。三千の会
こつ面くゝりなゝ。ひ忌とりれよあん。ぬなり矣
と志めすゝ。家を焼あゝぬ海の幸焼とゝり。

心ゑ日吉の社彩おゝ祢しゝ。又長等山ハ。志賀山
よ法ゝくなる。志賀の花堂。むゝれゝ乃山樵。
その言の葉の紅ゝ今の世よかうゝゝく。三井
のる樓よい月を待。弱女が袖ハ。不宮の面耳よ
そゝゝ。又天智。天武。持統ひ三帝ひ遷都ひ。故三井寺と
称き
吉野山源を辰とゝ。けいまハ大津の京をもひ花堂を意指
関越ゝ言れて。ゆゝ大津るのもの。一法きとたいそゝなり。家

○おゝ浜

新後拾遺 弱あへく打出の浜をとへば波をいとふ白ふさとぞ浦波 後拾遺

○長谷の山

新古 入あひぬやかの志賀の山の谷 藤なみ乃長谷の山乃春の色

新千載 ふるぬしちかのかの山の風ふきいの海とあ[illegible]志賀乃うら波 藤原

○唐崎の方ちかのよのんて横ぶひし

ちかの浦やそふを見ぬ人あるせん 遥風おくれうら波乃まつ 兼良公 一条後成恩寺禅閤

○堅田

新千載 志のくにかたのうきあれ浦の新あるぶよ入るめも あまとの影ハ 藤原

○境山○湖海○志賀

新後拾遺 山乃名ハ我わさとハいとで月新のあるそう海も境ありうう 道遥院

さとそれぬ花もあのごろ負海ハ父ゆもむとぶ志ぶ乃ら風 実隆

浦風ハ志ハ花ぶ乃ら風 世ちんを志ぶ乃ハ海おいとか 実隆

さぶ海や志ハ祝の海ハ入れて富士と云新ふうたてもあん 光廣

○唐崎

唐崎やふぶ乃ら日。湖あ乃ハ志ハ 郭公ゆ

さぶ波よ声打そふる河ふる志ぶの海ハ色とのぶ乃とや 常宇 養貫的

後賢ハ祖父の古ハそ新度くあ乃ーくれハ

あぶさゆくやそ世乃ふ乃ハ[illegible]ハ乃海ひくと志ぶ乃ハる宮 山形氏 浄友

風さそふ志賀の花堂の中の海白る波や樹のうん　素

滋賀乃山越の事。塩川源兵百首歌。長八郎と。六

百番歌合同じ。昔の連歌よい。春は春の月人を。今の用

志賀乃山越うて。女入ぬくあてりけるに遠でたりける

春の山を過を越てしかもうめを花を散ける　素

○近江八景

詩　桐國寺扑長老

哥　近衛時嗣公

○唐崎夜雨

瀲灩湖光朝露晴　玲瓏山色暮雲横

唐崎一夜摸稜手　半作松風半雨声

秋の雨は吉野山ばりて夕風と云ふて立つ唐崎の雲

○石山秋月

秋風蕭颯一天涯　霜滿四山不帯霞

古木田岩寒月影　吟残葉々霧中花

石山やよるのうつくてる月新いありも涙ぬかのくねそ

○三井晩鐘

湖面朦朧昏不成　昏黦高響出園城
霞間好是客船月　十倍楓橋半夜声
四ふその曉ぢかくなるはめぞとあづきくこと弁乃入おのゝ
○矢橋帰帆
釣竿手熟白頭翁　亭苦客船西又東
幾度風帆飯去後　呂公栄達一盃中
夫帆ひまなくやど寄ふの高毎ハまうらいつぐ漁と浦の遠風
○栗津晴嵐

嵐度栗津春與長　吹霞吹雨似相狂
山花片々一芦浪　湖上閑鴎夢也香

○勢田夕照

沙鳥風帆帯夕陽　夕陽人影与檣長
勢田曝網東山月　一色江天兩景光

○比良暮雪

吹入雲号飛入瀾　比良嶺雪暮江寒
輕舟短棹奥何尽　莫作剣溪一様看

すこしもつきぬ恨のなさはむかしの盛みとどる比叡

○堅田落雁

鴻雁幾行更不孤　晚風帯月落東湖
蘆洲背水堅田浦　猶見孔明八陣圖

○あまつこもえて幾海よまば近きかたにあびさ高屋

大津の町をとおりゆくば。松なかよりも。矢ばせり。家
家わまつこうくり。膳所城下に行。山王神事の時
神輿とそのよ故よ。膳所乃名ゆゑ木曽義仲の塚。
粥の多ハ。粟津の森。義仲墓。田井よ入る
義士乃潤し名のこゝおもんわとゞの野。義乃下。川瀬
夏雁

○遊石山寺　宮邸菴由的

太悲高閣甲天下　輪奐開基聖武朝
奇石如雕光烱々　清泉可掬緑迢々

山深源太留名地　境近秀郷見在橋
千古不羅紫娘筆　湖頭明月記良宵

七月十六日見湖水月　仝

同夜蘇公赤壁遊　清風洗暑覺新秋
浮光萬頃湖頭月　緑水変成金主流

○澍田橋○矢壹

西三条実教公

夢ふ竜のふとゝ久波のあさりひくかせられ橋
武士のやどせの舟近くこゝもいそがはあられせこの橋　家世法師

○澍田の橋乃ほとゝまふ。竜祢の宮あり。寺あり。その
名ゝよく覩とゝ。れ。あまこうへいるぶせこ乃里
絶出ぬ。松原中絶ゆく。彼野辺の玉水といふ
名所もくめんめり。昔乃哥あまる思ひ出。刈野
波乃里人よ四ハ。見ゆこをゝ。海たのたち方
よく。あるまげふ流を出。京津ゝ近ゝ
打ゝ澍田の長橋かゝもゝ一村人ゝ乃暮波の雲乃
鶯啼野辺の水ゝ乃ゝ春れて秋ちの波ゝ蛙風そふく家海

陸千石義孝てはらり近江殺山ゆく紀毒津の邊の花　絶

一草津　近州　石部より二里半四町

草津の宿遊君ども出て客をまねく

この里の弓矢武士ども。矢さきの口なりし宿

と言ふ。ゆけば寺山よりく。美濃路。木曽路よりゆく。

今右の方よりくもり。出てくれば。草津川。まい

ふ。ゆきつかふ。弱市とて。名乃松あるも

うなり。

ふてぞくとつふふ里を。昔は里ふ住人を。女を友よ。

歌ぶ。丈ハ他の国より。ひ友賢者なり着て彼

女を。守り居る。女くるくてみるれば。彼友。弱ふ

ゆるふ。ゆるゆ。和はそ。ふ。人よりぬと海

せ。とて手を脇ふ垂て。寝よりかくて。後。

女孕めり。彼ぶ丈ゆりれば。ひ友。ふくくとまく

に。ゆる。丈も。友ぶ賢識を。ふく。初て。ければ。笑

ひ居ふ。女。月海て。産りれば。揚ふ。ふ。産生

しるかぶ松ぶ山まを。をてつてとやぶ流ぶ乃流まを乃光
義理れをそあらさ人の為ふ可ゐべしとぶくゐん流のぶく
面しやぶ夫婦なれを不孝とせ。毎月。善ふを通し信
どべしぶ夫婦のてとまし妻ぶてて月壽乃後お寄べ。定れ
月ぶやぶるぶ必命短しぶ男子を妖まぶ暁姻べしぶ見いさ
秘ひとしぶ又母ぶ男児ぶ天地乃ぶをもしく淫湯和ぶ
短命乃相なり。妻ぶ祐候ぶ夫ぶ拒れぶいそ。母
ふ恥んしぶり

まるぶくも人の心乃種れいことをあたらぬ奇抜ぶん　澤菴和尚

一石塚　江州

水口三里子六町

山里ぶ流ゆくぶたぶよぶ三邪山ぶどちし。横田川ぶ乃の
うまぶ人ありくぶ。ぶさ乃ぶ。ぶるくなるまくぶとあ
山中ぶ乃ぶとぶ。又横田川ぶ生ぶ
横田山石塚川ぶの姿ぶまふ姿ぶ寄ぶ姿ぶしも長明
石もぶうぶ乃ぶなる世ゆを横田川ぶるふ濁る邪ひと異ぶ出廣ぶ

風もうるさしとて家の内にかくれてみるもの忠孝
義敬公富士御覧の記
見ひらり富士の松ぬきを西に近くこと山のくの雪豪
土山　二里半八町
一水口　江州
天王ゆり坂まくぢらしいふ坂ぢるむ。
名も高くぬか堂とうとれば。松の尾川。千とせの
清よ清り

甲賀郡中途不審　郵程月々向西風
今因地号何沈陸　水口行舟朱脇翁
あひやぐり雅をさそひて水口の宿の遊女乃張高り峠　西川赤長
きめわむ多さ高さ風ちてゆるぶ雪はなのこなごや　伊菴和尚
一土山　宝鏡土山八背郡手姓名トそり
坂下　二里半
山崎氏敬義
羅山

過尽石邊水口中　天雲暮れそめて氣曖々
晩来止宿土山雨　明日隈晴向老翁

出ゆくまぶこ。田村丸のわかぶ居ん〳〵てい
かりくし。田村門をまろまろぶ山中ヨ入鱧ぶ坂
のちあるこふぶふ石幡わり皮。あそれくいとりぶ
ぶ廉山ぶ。大きあるる。鱶のある事。自然の事
あるんぶ。唐秦人家毎乃門ぶ。鱶紙ぶ書て逃ふ
癘と除こいふ。ぶ文あるこぶ山の思邪も。おそれ

逃去(さり)めぐしと。此祠(ほこら)を笑(わら)ひゆく

ゑちんゑちをぞ拝むかなやしろ岩(いは)の上(え)に横(よこ)たはりて　光廣

ねのちかしといふ山里(やまざと)。茶店(さてん)坂ほとりに。中なか近江(あふみ)と

伊勢(いせ)の堺(さかひ)あり。鈴(すゞ)鹿の峠(たうげ)より伊勢(いせ)の海(うみ)を

のぞみ見る。此坂(さか)いとけはし

雅風乃むかしさへかはらぬ鈴鹿山ふもとにはまたやなきとどろく　深草元政法師

鈴鹿明神古址沈(スヾカノミヤウジンコシフカシ)
霊灯一點月懸岑(レイトウイツテンツキカヽルミネニ)
聴消業障盡煩悩(キヽテセウスゴウシヤウツクスホンノウヲ)
溪水山嵐神樂音(ケイスイサンフウカグラノヲト)
　　澤菴和尚

坂下(さかのした)　八十瀬(やそせ)川　勢州　関(せき)より一里廿八町

あはしき坂をくだれば。鈴鹿明神(すゞかのみやうじん)の社(やしろ)あり。山の岨(そは)桟(かけはし)はらひ行(ゆく)ひだの方(かた)を見れども。かさなりげなる山乃峰(みね)に筆捨岩(ふですていは)といふあり。岩(いは)高(たか)く。八十瀬(やそせ)の川ぞあひむすびて。いと大きなるかな岩(いは)に。なむぞなひ。わくなくざれたるところ。松乃あちひあふとふ。恐かくとも。ぞそれぞ。古の金岩(?)ところ。里すこしさとぢりとく。山。十文字残るあくみへしとも

跡ハあれどむかしのかげハ志らぬさぞかく　ぎん
杳鳥将をもされハ大和路よりみ道を　道春
九折盤紆鈴鹿坡　行人征馬恐蹉跎
秖今四海恩風遍　八十瀬河無白波
いへどえにしへのれ及びし筆捨岩のそでにとゞめる　浄友
むかしの峯坂をこえ秋ハ脚あゆて休らひ嘯青蛙の息
かけぐの金銀ゆかさ秋を蔵人
ふりよる花をしれとや竹簾八十瀬の流そゝまゐる　京九

一関　勢州

亀山に一里半

ちくふの一体わが尚開眼乃地蔵ます。皆人堂てり
ゆゑくぬしの名くるよ。史縄といふ。その我いとふ
む。又神道山よまうばらの。南よひさあり。
ふるゆふわとあぬまに沢庵山宮そ関戸ざかりの九条内大臣
ふるんらめいたそ沢庵川さくらの波も拾さかりん　遺跡流家源つ
関川まの流まふそふく。塘をめく。村くとり
るれむ。城下ふくる

一亀山　勢州

庄野一里三十三町

春斎

城在環亀甲勢州　冊陽洛汭地名俳
同名異景亀山景　三處西湖一色秋
○ちかくよりみ戸白ふのふるの
一庄野　同州　石藥師ハ北三町
沢廉河の来ゆ苔緑ましていさごゆ
ひのさくらなれ。屋代をとりあり不ましに

ちらく所なき花の咲ぬれうとゝ花とたゝよなぶめて
ぬぎしやうれ花月を帯に付もゝ秋の宿とゝふ　浪女
庄野後とふ〻紙を今。遠でたゝれなとゝ方つひそれち
ゆうに。焼米とふ〻ゝ。荒わるだにうるさしゝ
しやうれ思ゝ乱ゝ。もゝいかゝ。やきまめよおたゝ月見し

山崎氏敬義

棚頭羅列次来俵
斯物古来斯處糶
早晩帰嚢收得去
椿庭萱砌見慈笑

石藥師　同州

四市に二里半所

釋元政

繞過庄野郵。有寺聳高樓。西福門前景。
東方世界秋。百病無自性。四大一浮漚。
刻石藥師佛。此言須點頭
念のおこるい病。治ぐざるい。業ありと。油断排
ひのけば　○　鵜の野
おこて寄ゝいとろ鵜の野よ久そぐゝ長の邪　光雲

高さ五寸や横はゝ五寸ばかりなる数の数ハ清もしかと
辣石藥師其制工　應供方丈本當東　仁菴和尚
露倉廛碧瑠璃色　門出身途髻鑑中　仝
卷と投る。杖策扨よりてるつよくなりて郷乃
かゝもゝ果へき齢あるをバ。一ぬゝにゝ子を我ちめ
なん。始どゝ裏公弱氣力強。追分小出。吾嬬より。
伊勢ふまふぼうん。これより。神戸。白子。上野。
津より出る。いとゝ。桑名とい字八町を一つとゝ

一四日市　同州　素名は三里八町

此漁村と出る。ゆく〳〵川く搖とろりて。やう
やく。町屋川よりこなたいと大きやうなる。駄と燒き
誘人よとゝむ。漁人。得失遂呼しいてり又乎出
我南る。言我わ〳〵そゝぐと云。人まわるく
云る家ほのゝんを。うなさ。ひ紀又強り
震あり燒野の雉子ふなとそあるとと生ける〳〵ん

春翁

四日市場人爭赴　處々高賈相共遇
交易添得一日多　鄙中恐作公超霧
くもるよ入。寶ふ。天皇。聖武天皇行幸かし。其時の演

一素名　同州　四日市也

月和さまるく。浪風さびなる〳〵ふ。作歌ふはるる
なるまゝ。ひ海のゆよあべあぶえといふあるまゝ。その水
川内と素ふゆへよ。さまをまゝ。新〳〵ひ永長
さうるゝと。毎奥ゝるゝ。そびるの紀我。

熟田は船路七里

やぢなる白〜。山海をいせ尾張の境あり

わ〜も八月十又最ありそれと

わとれあやいぢくいわきこいせかり月もとまれ秋入海つ

元政法師

西風七宝斧帆懸　波上飄々著熱田

邂逅相逢三五夜　超遥飛過九重天

仙山縹緲宋濂句　鯨海渺茫徐福船

吾孝不容携父骨　非徇月下憶僧蓮

棄名船中物語

いぢくの者とふまつぢ伝らとる命ぢ船よ乗合て人〜四

方山ぢ物語とりぐ〜ぢ。百姓とおぢ〜さ三人三てち。

商人ひとわふ〜ぢ。年古ぢ〜る百姓

他業乃事共語りとる。九業ハ雅方の上もたく〜き語〜。

都里乃庶風ぢ。九ハ又もひぢ。初て下百姓ハ

酒まさう欲ありとて。おぞくまよ事にわひて完よ

農乃いと毒と費〜ぢ。素子ともくらしむさわともとい人

どぶんの償とまうしぶ又はくおんとも云よりと
つる浮草の根と絡てかの三河国の無澤と云て
ふ郷くらい。田園に有て下賤なれとも行て見れ加と
ぬと雨ゝ更百姓ハカすぐふくもそ又穀も植てさぞうしゆ
なるに木の実草ハ根と弱鎌乃鎌と。寒ゆ来ると
暑ハ夏の寒ハ孫日山野ふ身をさ〳〵。秋ハ九月ふ
ゆるとゆゝしゆゝしの子さへ三つ〳〵ちと。土産ふ伏見ゆ
しの様ぐらい人ゝてぐらい程長うハ或ハ伊勢より来ぶ

と。極山の僧しとぶ。ちまうふのくさ〳〵ふ。秋ハ一日
息とぶぐるふく河るくぶいきのふるうすぶ。黒ハたと
義とすとやゝん国ゆ史狩仁義とふ事も知ゆ学ぶ先
御国乃法新ハ月日乃おくるかゝく。あふさあく
ゆ法りふ人先ゆうハ世乃営を義狩そや
とさそふる寒とうも消もせく浸よりとうとさぶ
と右奇をて思ひ出るのミふとそふ人孤いわ。又伝説
何ふ思ふ何うハなぶく世乃間ハたく。弱点の花乃上ハ霧

分のうさよりはいかにも思ひ出てくやんなるもまた
古の賢を養あるも匹夫の中よりあらく出る例も多及
ばん唐の舜とやらん我国にも雪舟に名誉あり人もそしらぬ
今我くハ人うらく悪く業に報ひる赤子を賣一朶を捨
て他の国に縁ある我たのみて。まろうとといふうり みあそ
つりて独ながらぬ

又人の商人いふ憑み買ひ生れてはまつはしてもいとたなそれと
ふ赤の雲も。大骨むりく。ぶるふたぐひのことなりけり。

しかる世ふ赤ふ出来て。人皆價の安き我ものふする時
ハ絹布綿度とくらべ紙と織とあくそふ山絹の
かく人買人は為後くの事はゆめく思ひもよらぬ賣
ちやる其ふ赤ふ織をいとく織ふ麻を糸
ふ赤さはぞて花をかぶり柳ふたまこもへ言葉とまつく。
人を誑とゝ山深絹紅梅白絹浅ふも張みも糊油
戻汁ふ打せ沙糖ふ蒼ふ丸ふすて艶をとりそのひ洗さ絹
と存くし。蘇枋を紅花とし。或ハ紅花と紫ハ織をうぶふ。

えゝ皆。君子乃悪ふる所なゝ。芙山や照射をる表ハ本代乃漏尖新ハ庵子よりぶとせくゆいかいなゝ者のさゝぶ
おのつゝふるれゝ。家あゝ。天理神意も。そなおそろしく
こそゝ。たハあまゝ。容赦哭賊漆物をゝ。合せ合乃人くゝ。
隣を傍ゝ。家家と自慢し。えゝ。よりて亜有り
と。肩をそびやゝ。面乃らひ笑ふ。兆あゝ身より風俗よ
こゝ。ゝ。法家の人。役めなれど。流石高人乃心あゝ極い。
奥ゝ事ハ言ゝしめさず。世俗よふ。安相はゝ為なゝし

但小家乃屋敷しかもみすぼらしく大ぶ白人ゐ居む
弱を嫌ると云ふ事にて市町店賣行商人ハ多く
立るゆゑそなめまぐさハ四れど家ゆ難あり賣
て價の永く滞ゆぞ家たつまを多くしあ居
ハあ紙ど又或方ふハ家風正しくて買て價代
はく多くずハ始より買べうしど商人ハ野風
波よ身をくぶ紙ちく来りて各乃尚用を居
あづうに逢す必ずきあくふるまひ弱ふ色うもど雖

天理をすすうる事多くれとのば一言ゆ皆人をかうこはく
ぶ人ゆとて五の妻ぶと家ゆ行ゆ事年久ゆと弱る
又一人の高文云姫氏四ハ禮義ぶく賢ふ。いたりはれ衣ゐ
風俗かく作るぞやうう往昔を忍ハ思ふ姓をうけ
ぶ弱ゆとい事ゆ多くもかうゆ神の陰
末代くの帝乃苗裔婦人ゆても往姓伝記傑く。
女房も公ゆぶた廻ぶゆん世語ふ万石ゆ上る神く
まうと男神米帯ゆせん女神亦さもあそ貴

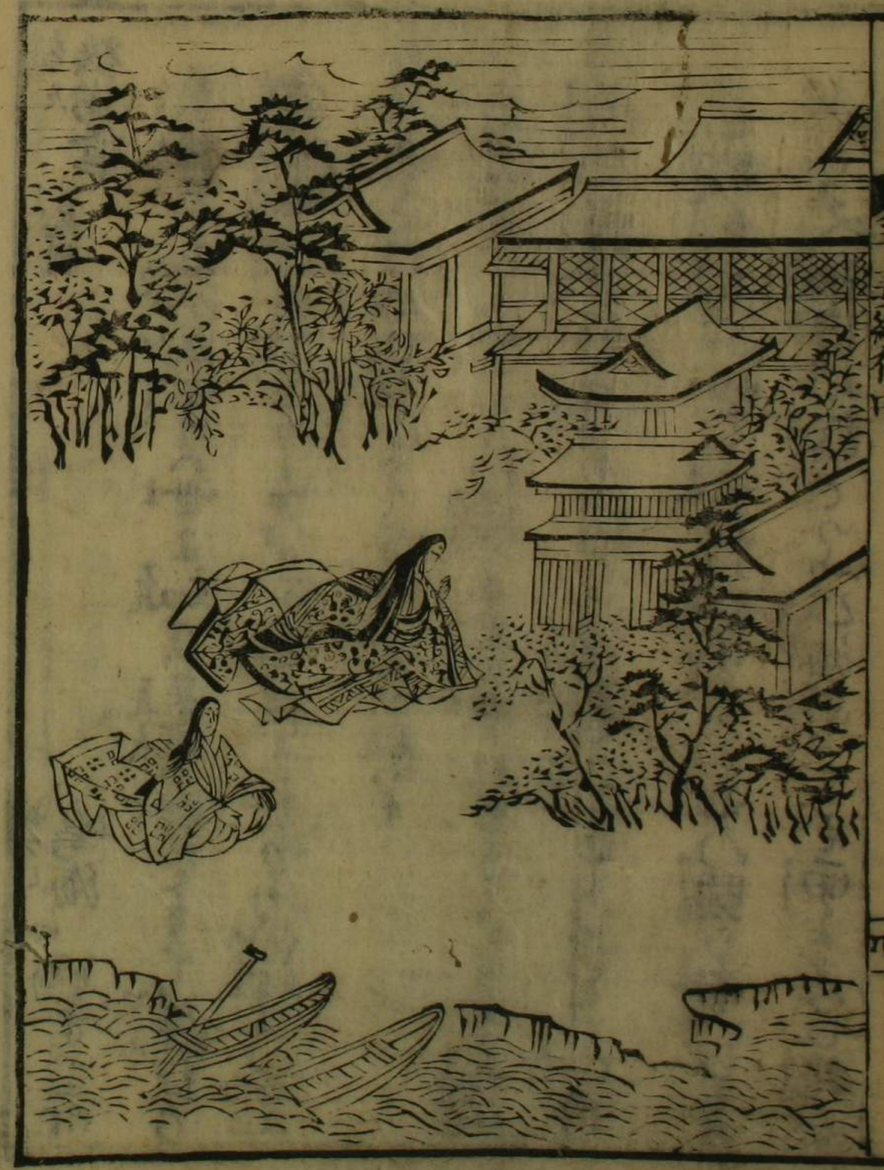
あるいはあるとさあつまり。着ハ綿綸羅綾の白ひ。
よはやうにして。袴ハ緋よ白衣より。ホうちをふも九
らうくしきようそひ。ふ形ハ内ぞうなるんと下ゑ上ゆをひ
ふもゝ下ゝ鶉乃眼似せ猫を石あり。今町人乃好とゝ摸様
戴きて。奇羅蚊めくさ色めきたり。下女ゝ小さ物ゝ
じゆあゝくそさらつゞ物の大史ふゝ。かゝ。ゝ嬉ぞ
うて唯独よかゝたまれハ。ほやゝさまれ代りしとゝや。
或乃方伝ハ似物下鶉服ハ遠史人乃業ゝて。一さる官

位をもゝ〜むるもゝあんたれゝあ奥源くゝ暑して俗
たる長ハ下習めさびとうやゝ家国の風俗唐国ふ劣ら
ぬべきハ。おのこたるくゝ。ゆゝかの心ゆゝやうなり。今も多
をまのひ。奇とゝるゝふ和国のゆゝんどゝあくこそと
儒自ゝ云あへまハ。今一人乃高人似せて。塗泥の酒
幸人ふハ。家喉も潤しゝがゝ。倉流のふゝ海くハ家
干飯人の心も和ぐべゝとゝあくゝたゝ教て。おゝえゝやよ
くやゝて人世ゝ人風流をとるゝがの富士さ人麻

ゑまぐらるゝん似くる紙衣とゝらひ弟子声よ。皆人
ゆふりをさゝうしぬ
商人乃法の主知を得て分のくらゐ不渡る世も式
過熱田前初月寒　三更雨進不心安
征帆遅速風消息　渡是厳陵七里灘　澤菴韜
七里灘へ唐厳陵府の。桐庚縣ゆにあとゝり。一名。
厳陵瀬とも云。漢ゆ厳子陵が釣をなせしゆあり。
後漢乃光武帝。百官とゝ仕とゝ緑をうけず。隠りゆ也

熱田宮　尾州　愛知郡　鳴海より一里半十二所

草薙乃劔の御事ハ世よ知り。是尖徳をして法ゆ
宮殿玲瓏しゝ。ゆをゝ紀。ゆゝ神乃光
月ゆさかんゝ。月ゆふゝ
名護屋しゝ。宮ゝ紀間よ。華表わゝゝゝゝ
所を。蓬莱ゝ。ゝるゝゝ蓬莱ゝゝゝ。ゝきゝ
ゝ。取ゝ。ゝ上ゆ。松生ゝ。ゝ乃頭ハ南へむ
ゝゝ。ゝゝ海。南ゝゝ西ゝ入る。北ゝ



みぢや
御獲屋の城宮すぐ町はづれ

榛花ちり初人後はかくふい雲ふうく秋風を物すさ
まじ八幡田の神弼なるもとゝ伝ふ

義教公富士御覧の時御供せしよしみくひでよめる

狩ま色紅めぐみわたる乃ゑ投ゑ[illegible]やれ筵の往来を[illegible]
月新敷家伝ふ[illegible]も時[illegible]る東よ星稀ゝ代く思ひ出ゝ　仝

野間乃内海をとゝふ彼義教卿ゝらし。昌ゝ事絶
地ゝ人生ゝ義教卿そのあとゝ文為義をまいをゝ忠と

やいそん不孝とやいさめ。人のとふかをんよりも
そし鐘面ゐふさ光〜も故ありや。孔子よ四門ろなるん。

佛かりかるべ寺事ふん

○石田里○打見○上野○松風里○夜宮里

名所
赤石風ゆ雲ふもしまつるやうふ雲乃よとを四ゆあるこちそとん
ま一ん
はひまるん嵐吹そふ姫とそや秋宮ん里乃夜ふたなり　武孔門流
すの末
今よりやや石間乃里ゆ秋風よ秋宮ふ吹い夜ふりなり　為家
名所
海ちかゝ海みハ松の高やゆ少て波そふたゝ孔島ふた波風　長明

名所
あ白ん浮ちゆひよ浦や成ぬるん上野の左ハ行人もの　景經

鳴海　同州　同郡

池鯉鮒二里ゆ十二町

ゆけハ橋姫乃人えゝ〜ゆりたる堂あるゝ。観音堂をめぐれ
しゆ。笠寺とふ〜ふ〜や。鶴鳴山竜福寺とゝあるゝ
ゆるゝ〜ハ浦伝ひ行く。塩の干潟をうかゞひて。
かゝゝ〜ゝゝ。十六歌日記ゝも。塩干の狂なる孔ぞ
さそうなゝ干潟ゆくゝ行く。今ハ道を付出へてそ
ゝう行くゝ。

昔太田道灌が所なりて。敵を追ふ事はやしに。
其潮時をあやしく。山濱一騎うちもわやしくとぶ
ひおひくれ。時よ道灌策を打てもくもぐしやと。
せめかなしにぞくして。山軍利なり。是も奇人は一徒
文武乃至人なるべし。道灌。古をゆもくる故
しるべ。奇

たくありちくなるに山濱ふる塩乃満干。声ならそれ
又十六夜月紀よ。太田のえいまいりて。伏しらるもくかる

ちなる。たてやつる奇
ふのるぞよ。ふとなるこがさしひく塩も袖のまくら　阿佛
この塩はさしてそ来ちる鳴る海浮作や。あれと又あ見るく　円
行弱乃うげも夕日ふなるこ。ぐさやもちぬ乃ふ　長明
ぐ。ぐ。閑なるこ。たぐひあるや。ぐ。ふ。裏に白波　元政

形後概

○呼續濱

かるる人かくタ波千ゑる立かて友とびぐ代濱よ　叢阿上人
ゆけバ三河のとおく乃堀橋あり

一池鯉鮒同州神池三鯉鮒ノ故名トス

参州碧海郡

岡崎二里四町

あり地の鯉さへ鮒さへすめる毋よあり毋うまつさうみ心に 読人知

碧海八幡宮へ

八幡宮へまうでて。市場の跡ありどくべ。はるるうこ

らふけ。市たちく。市女と花笠よりおもうお。仏くる我

夜しあひ者たちふけ。ちよ屋ぐ。をのよい。ものよ花

ありめぐくしてよさそうり。そのぐさ。ぬくて色めくと

や。見よる八幡力わくうおゆうんとて。八ヲあるひ

さきなくひたぐ。ひくて昔の跡ありとて

松かそる陰よ。業平乃石塔ありけり。門ハ北よゟ
南へ西へも流きてけり。橋も絶えず。あるさかゆゑ
八橋の里。又里乃東に寺あり。浄教寺といふ。業平
ちをたふ。業平自作乃観音并在中将乃像もあり。
かきつばた池あり。かきつばたぐさくきる。坊ありて
のぞきりぱさんで此花よ妙ありとぞ。此八橋むかしハ。海りにて
やかりしん。又花の滝も。硯ちくしときり。十六夜日記よ
も。八橋よつきて。みれバ橋もみえぬ

ちぢみ乃袖よおやうる其八橋をたゞ言かけやうりゆかしき　阿佛
添藻
八橋よ又でよ汝る袂くらゆくさく袖よ露ぞかゝ青柳か絲　後成

○原野澤

名寄
又月乃原野乃澤よ物かりいさゝかの古乃八しう　西行
此処乃村ゝみ里をとふぞうか寄りハ海原の一よ
乃なき

○三河を隔る并を思ひ出

万葉九
三河乃洲崎も去りぬ棹さし汝よあれぬ浜とみか春日

三河とは。矢矧川。男川。女川。こゝ三つの川を
ゆくなり。水とハひろきなりとゝ。矢矧橋ハ
墨俣の大海なり。男川ハ右面の大川なり。男川ハ
墨俣のあるゝ。大平川なり。又道を行行日。はたぞや
雷雲真道。史をあ人待りし。首持院天白。三つの
岡ゝ。行幸ゝとゝ。ゝゝ社ど。いぶとのあとゝゝ。社ゝ。
真道ハ。光仁。桓武ハ時なれい。世久ゝしてゝゝ。
ゝや。事略して。書りゝせるゝや口惜

○矢矧の橋二百ゝ余有
日ゝ武の尊。東夷をぞほろぼさんがためぞ。ひるまぐ。逆ゝひ
矢を地ほく作をらゝゆゝかくゝり
梓弓矢ゝこゝゝ雲ゝかな。橋ゝあるゝゝ心うゝ　為家
軍ゝゝやゝゝ浦のあゝゝそ宿をたてゝゝゝゝめ
狩ゝゝ矢矧よと雲やゝゝれいとやゝゝゝ川のゝ　衣笠
思ぞゝよゝはゝゝ雲ゝうゝし素せゝもをゝゝゝかめそ　長明
うゝ世ゝゝゝゝゝの社ゝゝ梓ゝやゝゝの橋ゝ素ゝあてゝゝ　元政

昔山川あく是利と新田と戦しかど今は川巾のうく
風蘭戦乱さぞ雨降ちく秋をうかぐぞいはてを乃波
滄海みみち徳川流を大河よりつかざる世ぞ千こふたえ
ぞ猶あれ橋を長くあたる秋を

一岡崎　三州　同郡

藤川　一里九町

城下いくこえり山ふよりさく秋ハ花ハ紫とつ名ハ
そそ二村山も近しとつ

春齋

累世先君多戦功　岡崎城郭聳蒼穹

國家根本　従茲始　欲唱鵜風歌大風

城まより使して
とゝ乱なつ山ゝ花ハ
いでゆけハ大平川　橋を
是男川也

一藤川　同州

赤坂　二里九町

山茂川赤坂を思ふ。美濃路ハ。関ヶ原茂河赤坂とい
あり。是昔の海なり。中はゝ山道よ付うて通
へぶもし山宿ゝ所ようはしもて来ゝれるや雨ハ

よ向とまつぺ山路ちぺ山中紙幻こ寶藏寺といふ精舍あり。

方子
荻川のふちせもまつぺ縹さて夜の袖紙ぬしはる氏　好忠

かえしぺ山ぺれ宿のゆうぺぎとひとえ白ふ花の荻川　浄友

一赤坂　同州

御湯に十六町

白雪の雪ぺ山ぺ積ぬ赤坂や名ぺ人ぺ渓花のたぺぺ山ぺ　俳菴稿

山ぺ土さぺ米ぺ入ぺ白ぺ山ぺふぺぺぺ包ぺすぺぺぺわぺやぺぺ。

女松生さぺてぺり。或人いぺり。山所ぺ君ぺ名ぺぺすめる

し。彼宿ぺ。ぺ。沼の流ぺ。水ぐぺぺ跡ぺ入ぺれぬ。

又ぺ星も國の守ゆぺぺてん。ぺ。譲ぺぺぺれよ

ぺや。平秋時哥ぺも

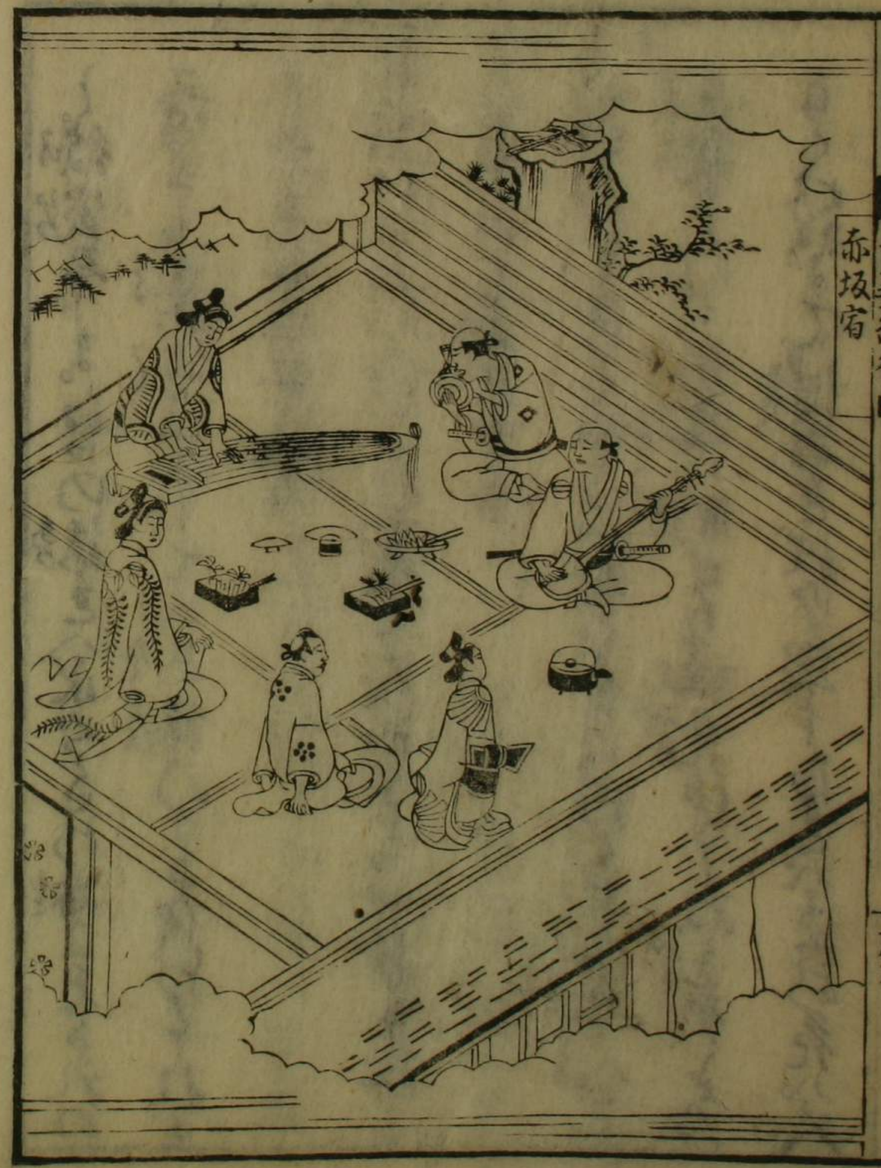
一歌ぺふゆぺぺぺ人ぺぺうぺれ妻ぺぺぺぺびかぺぺるちぺぺかぺるぺんぺ

ぺ。ぺ。ぺいぺ義ぺぺかぺ

いぺぺぺぺぺぺぺぺぺぺぺ。一歌ぺぺぺぺぺぺぺぺぺ。ぺ。ぺ人ぺ。

受戒ぺぺぺぺ。邪婬ぺ制ぺぺぺ。姪女ぺゆぺぺぺぬぺなぺぺぺぺ

ぺぺぺぺて。ぺ價ぺぺぺぺぺぺぺぺぺぺぺぺぺぺぺぺ人



の心をうこかす。秋の月を人ゝ目よめたるを是も天地の物なしかハ其打ゆ[illegible]ほるもさかまぞうゝ[illegible]といふもおのこハすさゝじ。さるかあれと子このあぐ〇をもて二笑式

冥よりやゝ心を者よ也ぶ[illegible]ゝ秋ゝ郁ゝ[illegible]花ゝ[illegible]

風月の家をうしなふ

御湯　同州

吉田　二里半九町

山里を出ハ御湯川あり。ゝ秋つゝたの方ゝ坂越て

見そのあゝの通清水あり。水ハ濱松より出るとかや彼方

師山濱名の橋橋ゝたゞし。山まよいつゝ。今
あゝいのこゝあゝ。山名をいゝ。見ゆ山ゝもの流なり。
光廣。東行之記曰。安加門流の系式高とゝ。
阿仏尼
海より二村山よりて八橋どゝゝたるゝ。それを。坂
海道の絶なりといゝゝ。暗の長が海道記曰。坂より
阿山の方へ行しゝと見えゝ。見も東海道去十六町
ふる師の山もゝゝの。海入ゆる紅いゝ面白ゝ
あたゝ波もたゝ山あゝ入油の入ゝ。波ハゝ。 阿仏

油貝をひろひて
もゝもひろふゝひゝる姫ゝ紙ゝむや袖の湊なゝ人 西川氏 赤松

一吉田 城下富 二川は一里ま十六町

山橋 春川。永地。伊勢乃海ゝ系と云 春齋

吉田 昔日戦攻場 一旦勃成洪祇長

行客憑雇 湾子屋 勝於湊浦不橋梁

ゝ乃而丸向丸ゝ。ゝり。彼者ゝり。家。新ゝく祇
丸深ぐゝ。ゝ乃器代調して。家すて。いゝゝ。ゝ。ゝ
おくふ寧耕といゝものゝく百八百ゝて。ゝ

あり。佐野分買よ價をつもれど。蒙よ征あり。たつも
がうに御代あり。唐人の三代とやーんぷ。あちくびゆ
え。荒のこちらに為よ。かーひて民のつもうはこいこれ。
とも乃をゆぐりて。ぎーさふ為らくるもと
ゆるらぐ。るも。幾ひ。いをむさぐーびつくく海
賊ぐらに。ゆくもひあく。ゆさあも。國やとく。民ゆ
たうかるこ。いこいふうこ為こびひくぐり
城下を出くゆくく石まくふとい為るたよくる。松山

ゆ中の大宿の駅舎こ云あり。先うら坂をのぼり

二川　同州

白菅に二里十二町

松山ゆを行ゆけば三川ぎ江の湯橋を
ぎくぐぐふふこ川乃明ゆ行もをかくの間とこそ見れ
富士紀よくふあんぎ江の塩入坂よいらおくーぎん波永
越ぎる宗よほぐ第ぎんぎ言の葉ぶもなし。海よ直下ぬ入
為ゆ世ばといひくるこ面永ぎうかとて宗くの波
くくくくの流ぎこたうとあこ海乃やら松永るく

とぢぐちたる洲崎びも三つぐとに漕けて行くるかな。

いとゝ天の地ほうの雲ある花こゝる遠方の富士の根

すがのひかく弱まと行くこの道みく筆をそめ〳〵社代らて

御保二首　義教公

いまぞくや祈ひのうちわら塩の波いひの紙しふをなぐめて

立ぬりいく年なこゝろのぐすきをはつ波すてゝとゝ世を

かくしぢかくも浮和をとまつるぐる地をとおしけり

しくい　法京孝

言ふもけうそ地よそ奥信天坂ゆメ山にしのうちの称ハ

潮天坂松原ちゝ浦風ちよをーさ也浜の花やちゝん　荒堰は一里十町

一句涙賀　遠州

哥枕よちゝ代白蓋しくしくあるゝ山ぴ里と物ぐ花ち

山よそゝて右ち池わり

ま山秋も風ゝ涙こすの白とぐ芦ゝ海涙ー浜乃松法　蓑

橋代の里溪石の橋の茅ゝ今ハ道かゝりて跡あ山ち

さゝ代ち坂越の不ち書行ゝ友人ゝ奇いちくかゝゝ旅

海をあぐさゆんとぺいざるうれてぺいさるうぺん奇ちて

へよ書付

○ゐる師山○濱名○橋や

ゐる師山杉よりゆのかさ杉の橋もとうけく月海ゐ西　晩秋四大伝

ゐる師山久遠くれい禁ゐの浜名の橋を月よりゐ武　改村新伝

終後掛

知朝浜名橋ハうぐへーて霞をワうゐ武旅人　赤門大伝家長公

風まゐる濱名の橋の久遠毋内杉てのがる蛍は拾弟　為家

名奇

ゆくゆくへ濱名の海よ三かゆりむとそ波も鈴ゐ行り　雅頼

月

ゐ杉まそも人よなれわゐ鈴ゐ武濱名の浦は袖の塩風　冨

月

濱名川入塩ゐさ山荒ゐゐる師の奥も荒場ゐなゐ　小幸相

泳めゐるかさハ濱名ノ西の貝よそ武ハわゐ世動のかけ〜　元改紀帰

ゐる師山紫ゐて月人杉ゐ濱松の一もとぐらゐ浦ノ入海。

ゐ杉慶歯奇やゐ山奇をぺいぺいわゐいの海ゐ〜めむう

〜ハぺ濱名の橋ゐ。湖ゐよかまわゐ〜ゐるめ〜。

ゐうれハ帯よいゐ坂越の方よぺ名所ゐ〜地ゐゐ又い

ざゐひの日杉よ。橋ゐ〜ゐ所よ法ゐ波ゐぺハゆメゐゐ

つゝひわりて。系乱つくもゝぞ。南よ海潮わ
漢毋波ようふふ。湖ゐりて。人家。峯よりゝ
紙ゐ。ちろふ。剛崎をくち。出く。松きびゝく。生
けば。紀嵐ちさりよむ。ぶ 暑ゐ海よわ。をる格式
濱名し名

河佛

ゆらゆる籠霞い。清もゆ。ゝ。ゝ。ゝ。濱名の橋ぞ。ゝ。ゝ。
濱名橋。光孝帝仁和の比。濱名橋と。造。せら。長さ
千尺と。同記。ゐる。ゐり。今。橋。名ぞりといふ

一荒堰　同州　　前坂に永上九五町

ちくせんと切とふ中は山くづれ螺の貝地ぴそぐ
しう。ぬ。を生じ。その跡。北へさして。入里ばかり。海
となりたるなり。一説ハ後土御門院明應八年。
六月十日。大地震ふ。山くづれて湖ゐと成うと
いつり。名と彩岳とあらたむ。百九十余年ハ成。
山海ちほいまいと淺し。女のもくくをりたち
て。鈴をふむ。又はまくり水を。塩を作りて。切

海ちりぬ。まくり日和を待

○今切　　羅山

昔聞陸路通　今見水波洪
魚躍泳游處　鴉鬧浩蕩中
海岩螺貝拔　荒井鷁舟沉
眼豁乾坤裏　欲凌千里風
世事利名不二乃山を入く　釈元政
碧天雪白白雲間　走卒児童亦作顔

東海初遊多少客　富士不敢問何山

一前坂　同州　濱松江二里十二町

右ハ遠州灘ニて荒海なり。まさごゝ浪ハ高くかゝり
又引佐細江と云ふあり。前坂より一里半いて東西ハ四十
南北十五丁地形のごとく高く見引佐細江と云ふ
濱名橋と云ふ長橋ありて渡りいるみさ細江と云ふ大海あり　光慶

一濱松　同州　見付江三里七町

坂下海より紀伊ゆ

名寄　師山ハ遠江ニて見付ハ濱名橋ハ一ツとして見付浦の入海　安融

濱松ハかゝる海辺より多て見付人ゆゑに昔をゞ思ふ　安和門院四條

同　波の高き風の音ハ山なびくごとく　精ゝと濱松ハ里　長明

月延記　濱松ハ海辺なる亀も秋ハ波と風の声ゆゑ　元政

羅浮山

此地神君建幕営　龍蛇陣勢幾精兵

威風遺韻入レ松去　濱畔猶呼千歳邑

○天満　或曰天満寺と云ふ依有之川之名トスト云リ

てんまうハ流行のあ海ハ未なりとつふ渡雲の所ゑ

よもゝ羽神の社まん

いざゝひの日記ゑ天龍ハゝとゝふ毎ゑのるふ面行が

むしもゝひ出ゝ社ゑ事、いゝ心かゝ

あの泡ゝゝ世ゑゝゝる船を人ゑ早瀬のふ私棹もやゝ見ゝ

長明道の記ゝ云、天中河ゑいゝゝゝ見いゝかのゝ仮宿の

海ハ未ゝ船ゑ人ゑる。浪毎ゑ人ゑ乗ゝ棹もハゝゝ

かゝゝゝゝゝ見ゝ天ゑハ人ゑ事なゝゝゝゝ

天満宮中なる海の名のみて流れはやみ浪のゆくへ　長明

新田左中将義貞、足利尊氏と、たゝかひて、義貞敗北し給ふ

敗北のがるゝ川は浮橋をわたして、兵士を、渡しかくく、義貞まことに浮橋中たえて、ながらへをと、新田軍おもせばゝ、ひきもどりかゝる、敵こえ

こゆ、さゝら波なるかゝ名ゆゑかくこそ

○池田　山崎氏

池田宿舊天龍上　湯谷墳残林藪中

可観宗盛溺壺　汚名濁水共相流

その名ゝ乃里ハ河流となるふるりても池田ハ名なれ、矣後

ゆきうかゝる池田の霊ハ民まで、もすゝ、ぬ代なるあるらしき　竟存

遺記

流乃音も松の嵐を伴ふの浦ふるのふるぼとそ、ゆ時高

中宮場をとゝめけ、右のゝ、ふいすの浦とゝふ大池湖

あのゝ、ゝ。松山の中よ八幡宮まゝ。又大の方一里ばかり

行ゝ、よ。揚が池とゝふ。源氏の師。巌山のあゝ。源

光ひゝ、ゝ。命を全ゝて。弥勒の代をまゝん。大神宮

出て擢が池に入しも。是徳若家定公乃紀地なれば縁てかくなん

一見付　同州　袋井江一里半

宿ハ出くるれて山人々の坂ゟし。富士を見る。誠おもて見付しといふうくい見るや。又鷺坂も是にあるべし

誰か来て見付の里とゆふ鷹のしらぬ旅人にはかたる　阿仏

今は家わかれ秋が奴かねとなし見付は里の名をさいひたて　元政法師

その秋の風やふはひてふじの山こえて

いはくは申くるれ古の家ふきんで見てねかへるふじのる　擬　元政

山崎氏

當面見来見付臺　臺邊繋馬立裂袖
太平有象松山色　忠勝勇名倶壮哉

此三番野坂をくだれば、土手をはひて右左町田おほきしぬだのかたに岩井といへる里あり。昔新羅の露の齢をためさんとて露のたぐふ。金れを付年号哉まるしなちまかりしが。今の世に流れて猶かとよ。三ヶ川をわたれば、たのかたに楼門あり三熊野をうけ寺

○三香野(みかの)橋

名寄 うかりける人の心の橋乃朽もせぬ身をぬるよ世をわたる 宗尊親王

一袋井(ふくろゐ) 同州 懸川(かけがは)江二里十六町

三月三日の比此所をとほるとて

わすれぬる世(そよ)の人の雛と月の旅(ゆき)も家(いへ)に花袋井(ふくろゐ)乃里(さと) 山崎氏

底事衆生一被誑 龍華妄説薄伽梵

假饒布袋井中在 仁者従来不可陥

一懸川(かけがは) 同州 西坂(まつさか)江二里廿一町

さくらをも城(しろ)あるまじくそめぬのび所(ところ)の名物(めいぶつ)なるも 読人不知

藤原清輔 あれぞこれ里乃なるひとつ河毎(ごと)に音(ね)てふ布(ぬの)をかけ川の里 元政法師

身延記 いでし家(そく)をきて秋のまたも馬(うま)にせくばくらみ

冨士川渡記 いでし弱(こま)の跡も迎(むか)へばかさ川のきえし遠(とほ)の親(おや)も待(まつ)べく 元孝法師

折まさに渡さ袖をかけ川やいとどのそふ秋の村雨

やまとにゆきばかの中の佐夜(いてう)の末あり世のおとにきく

いふ嫁(よめ)が田。さやうとり島(さけ)あり。昔(むかし)嫁(よめ)が涼まとなりしさうとあ

ちく。一たんの田を。弱の石のようにくしいのぐ。嫁石よりと
うけてぞくなりかまどがゑめよ。塩をつきいとなみ
をうゝゝゝやきうゝめい。畑よりく麻を。弱め居るぐ。俄
よ神ゝうゝくなりうゝれい。陰の森といの霊ゝ。
よげ入ゝに。流よ。雷のためようゝ。ゝてうせーとゝ
一西坂同州世坂蕨餅古来名物也然ども昌謹

金谷に一里ず六町

世味莫如饑芋甚　幾人到此失義機
西坂蕨非首陽蕨　往来不分徒救饑　山崎氏

さの山よりふじの裾はのこる御覧じて　義教公

姫がの孫も面影くらわかのくし雲ゐらるむさよの中山

袖ぬしもかくきく月の影消てまちまつよ依夜乃中山　素暹法師

身延もとるや。羽迦くなわ思しぱふぞとこて

あふえたて分ふぞたびあわかひが根もさやかえさやの中山　浄弁法師

あ西しやさく見中山七年乃舞もすれなう命なりなる季　為長

みん萎れさやの中山中絶て苔乃むしろよ松風ぞぬく

むかし承久の乱に。院宣を書奉りし咎によりて。中

納言按察乃光親卿。武家の為に搦捕れ鎌倉に下りしが。此

所にて誅されし時

昔南陽縣菊水　汲下流而延齢

今東海道菊川　宿西岸而終命

十六夜の日記にもしるしつけり。その祠ある家の障子

に。かの詩をかけし跡も。今は家もなし。其のちは

とたびめぐれど。火のために焼てかの言葉もな

うしなひしとのあり

かゝる船人も今はなのりそわ弘ふとをやとなこうゐひ阿弘

わてんと呂ひうをうやを東路よりてゝうわいさゝ海の

○作留橋

作者奇

ゆゝそれい呂ひとゝゝ人ゝりそ海いさゝを又孫い亥な 後人不知

ひ菊川よ矢の根かぢあり又山中乃昌蔵よ。各物の茶

釜ゝ

一金谷 同州

○大井川 を列 駿河の堺なり

鳩田一里

ゐなぶ代の新よしをも大井川海の景よりあるさ石ゐ清さめや阿仏
瀬を渉ふ思ひうくさい大井川人ぢ心り底ゐ為のかりど　澤菴
羅山

海道奔流第一川　藍輿舁載擔夫肩
洛西大井雖同称　此不看浮彼有船

一嶋田　駿州

藤枝に二里

山崎氏

しら波田ゲ系をゆく〳〵。瀬ゐ乃清飯ハ。祝子ゲ油り
うよ〳〵い為帽山しつゝもをつゝと。たゐれかゲ〳〵。野社と

ぬるぜく
風雨頻来宿嶋田　家園万室思茫然
通宵漏却茅椽滴　坐到天明不作眠

○瀬戸山しいよ西まて
西二山見
うらかる尾花の波よりつゝ塩浜ハ幾ゐ瀬乃山風　麦冬

ざれ言

くもかの瀬戸の清飯栗よ似く女郎ゐとこどもゐ

一藤枝　同州

思ふに一里文河

塩竈

青蘿緑蘿恰好逑　藤枝村裡歎吾猶

家々不解閑人意　春杵声忙八月秋

富士山後　山崎氏

たゝかふ人秋てやう〳〵葉ちらぬ花の墨　堯孝

一圖部　同州

むつの国若の細浦をもらえんとしへば肩ぬ　蘭子に一墨九町

ぬもつかぬもたゞとゝまるまでかいとぎす　彭古

乗ぬりさのまゝ友もあるさたゞひゝ墨ア代墨乃松の一ト　中勢

久日さん　きゝさもさひわらてる墨紙の墨は山法ゝて　為相

入日さん　墨ア代墨紙さひ拾ゝ　もの多ある墨やゝさは　牧阿

雲ゝ雲のをゝの墨ゝ姫を浦ゝ　ゝなゝ姫の一村　元改

夜枝ゝ墨や四ら〳〵　郭公声を墨紙乃松ゝて　京ん

○宇都山　宇都山地蔵尊　十図ゝ名物ん

夏ゝで思ひ出ゝ　ゝたのゝ山ゝはゝ　雲首　法下

昔思ふゝ紙のゝ山ゝ　ゝ紙ゝ　長嘯

あゝ人も夢ゝゝ　ゝ人ゝゝ孫ゝ　遊蓬流

いく狩ぞ身八石より出をとつの山光乃ちるさへさびる紅葉哉　医菴和尚

名あるゆ宮殿の山をもし道ひろくゆめ世をわつらはめや　秀吟

鞠子　同州

府中江一里半

此所の長者三乃藤門を萬樂乃山門を造畢功よりて老和尚如意をあらく居士よなり給てわ山翁ち

うゝ八おゝゝちをゝひて。おのくがゝいを求めはらあん

○授法○多紐ぞりよゝわ阿弟川すぐの里ぬゝ

ちく毋ゝゝゝゝてゝゝゝゝ乃紐ぞ時を出る白浪　九條内大臣

旅人代てこの川あをのるゝ弱も是あるこゝやこいそぐ船立　堯孝

むらゝ越ぐ長の姫をゞゝ紙人よけうゝいゝ

ちゝ行のハ手紙をのかゝ代まやゝ出久

○阿部川

氷霜寒烈仲冬天　冒暁凌風阿部川

借問放翁何用處　紙衾夜坐野狐禅

万て焼漆をゝ乳ゆさゝのハ名所也

同古

汲ゝえてなゝの田面よゆゝる田舞のとりゝ君ハあゝさゝもゝを

いゝぐゝくゝのゝの市人さゝぐゝし汲越ゝゝゝ久ゝの元　為明

あゝ川を流りて体ひゝゝふ石の待の野狐禅し

いゝるゝ付て旅人のたゝれ帰り行をゆゝハ

虚實人ゝゝそひゝを。かゝゝの屋ま。ゝ人ゝ乞ごゝま

虚實ハ佛也　傷也

ゝゝ拾めゝゝゝめ。人ハ人ゝをゝごゝゝあゝれゝゝゝゝ

成事地ゝゝ孔ゝ。ゝゝ釈のかゝゝゝなゝゝちゝゝひ

をゝたの無ゝゝゝん旅客又ゝゝゝ。ゝ孔大極ゝ無ゝ極ゝ

ゝゝゝ動。一ゝゝ。ゝゝ天ゝゝ常也虚ゝゝゝゝ実ゝゝゝゝゝ易

よいとも五行異見をとり。央中のあ。あ中れ央見芸画
不二ゆくゑどや。家国の祇秘。見伊をとり云。天地乃道也。
されど聲もなく。奥もなくを。流れてとり。ち紙。
詩みうえを人梅の花よ。そ色香も。身を心も一枝を
ゆくゑをすぐやうしいつゆ。百の人をくく
花ちくゑんみくの巻ち。月ゆびさんぐしち紙いぐん
ぐをさてぐ。大意大悲乃方便。皆ちを。仏神君をの
教法とあと紙ひとり。いくのゆいふえれや。いぐり。或書

み天照御神乃。神勅宣を浮屠をのれやいひ出
をのをて書ちくると。見。四天師乃ことちや。家国
ち日和紀ちをを。推人のあなるや。代くの帝。れ
を。御宝くく。ちくぐや。又韓愈が仏骨論の辭も。
時よあくず。又時み遊びめをと。上京左子よい。寺屋も
けををち紙也。今歩国さくよ。奥内典乃を。詞の林
富をい。ぐまのかげくく。ろ海清代よまれわひく。松竹ん
さちよ。梅をあくさず。雨も風も。ゆある時よあよ

よろこびさかえあうがさ〜んと。ろかん人もこの心なり。

たゞりあくさ〜うるづゆゆく

法華の経の力ちり友に仏の乃をもたゞれるや。作ゝ生うさの

長如堂如来の仏御夢告

弥陀あのむ人に西方ちり月のまやまとれ弥陀西へまつてゆゆ

極ふし往生せんと思ふて地獄に落る始なりけれ　一休和尚

なのだ〜ゆゆるぬ物を人毎よ連ゝと思ふ身ぞ連なる　大燒師

あしらふ秋を知ぞる。都なれば三つぬ九思ふあ家　道元和尚

題龍

あかあ〜法報恩ぞ弟子ぬ一ぬきいかの人乃　大燒師

府中　駿州

江尻は二里半五町

御城乃前をたゝへゆけハ。富士淺間よりふげうなり。

延喜の御時。富士乃ね宮殿。宮ようたしなり。新宮

宮しいふ。金殿日ふ映じ。錦帳花と織ふ織

ゝそふ。宮とあん壺橋山といふ。山町家こあつ。人

身とうふほとゝ又ゝ而。和ふ勝まつく。ろて丸紙と組

又紙ふをう。盆石ハ法くろひくゝ。ぞうふさ〜ゝ淺

間ふまつでくらめふ

去の人の思ひ出れば麻衣弁も織て[illegible]山長晴子
紅葉ちる三の[illegible]山のさほの八錦とさても書と[illegible]人慈
ゆく〳〵狐時しる。彼系時鎌倉紙。めぐ出く。山
ひろく。角くひ山て。山中へ入。さかてといふ所て
うゝてゝ[illegible]やう又久能山右の方ゝ。観音ま
ぐゆへ補陀落山ゝも[illegible]。猫聚海無量乃地
○富士紙ゝ[illegible]ぐ。いゝ〳〵晴ゝ[illegible]ぐ。奇。
ゆゝ思ひ出。むゝ乃ち。ゝ[illegible]ゝ。近ゝ世の

をゝ[illegible]か書はく
物ゝてゝ[illegible]ゝ世乃中ゝ[illegible]ゝ[illegible]
雪の富士乃根
[illegible]の根ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
たゝ[illegible]ゝ他の国ゝ[illegible]ゝ[illegible]の根
穏仁聖
心ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の根ゝ[illegible]ゝ上の[illegible]
馬九臣
相光廣
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
道空院

[illegible]の根は大うるはやり人[illegible]の世[illegible]
[illegible]　中院通茂

かうるまたぐ[illegible]ぐやあれ[illegible]
[illegible]

白雪[illegible]母[illegible]ふそ見うる[illegible]の[illegible]福[illegible]
[illegible]　後光明天皇御製

同人[illegible]
[illegible]　飛鳥井雅章

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

月花と[illegible]
[illegible]

[illegible]の根は雪[illegible]
[illegible]　後光明天皇御製

かさまし[illegible]
[illegible]　阿野中納言季信卿

不盡御[illegible]の紀ふ　義教公御詠

うま[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]　仝

富士御[illegible]の時[illegible]
[illegible]

[illegible]福[illegible]の根[illegible]
[illegible]　光孝法皇

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]　義教公

白雪八さなる山も櫟まて[illegible]

天の原明るまてむ雪の[illegible]の雪の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

散て出し梅の花乃面影まてこそ乃山かな　長嘯

奇さ乃眺望のよそ[illegible]

それとも見えわかぬ夜ふ朝あけ[illegible]の白雪　元政法師

山やまの梅の花の雪の[illegible]乃人こもなく[illegible]　同

いひ[illegible]ぬ[illegible]富士八煙もけたぬ白雪　宇都宮由的

おもふのこ[illegible]富士乃白雪[illegible]　李吟

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　川崎常雄

[illegible]　[illegible]　賈氏

[illegible]　[illegible]　山形氏浄友

[illegible]　[illegible]　那須氏祐英

右乃秀哥ハ豆州ふ[illegible]
及なく[illegible]

富士の高さ十里廿里、かさぬんとも坪の[illegible]と　室汉

仙客来遊雲外巔　神龍栖老洞中淵

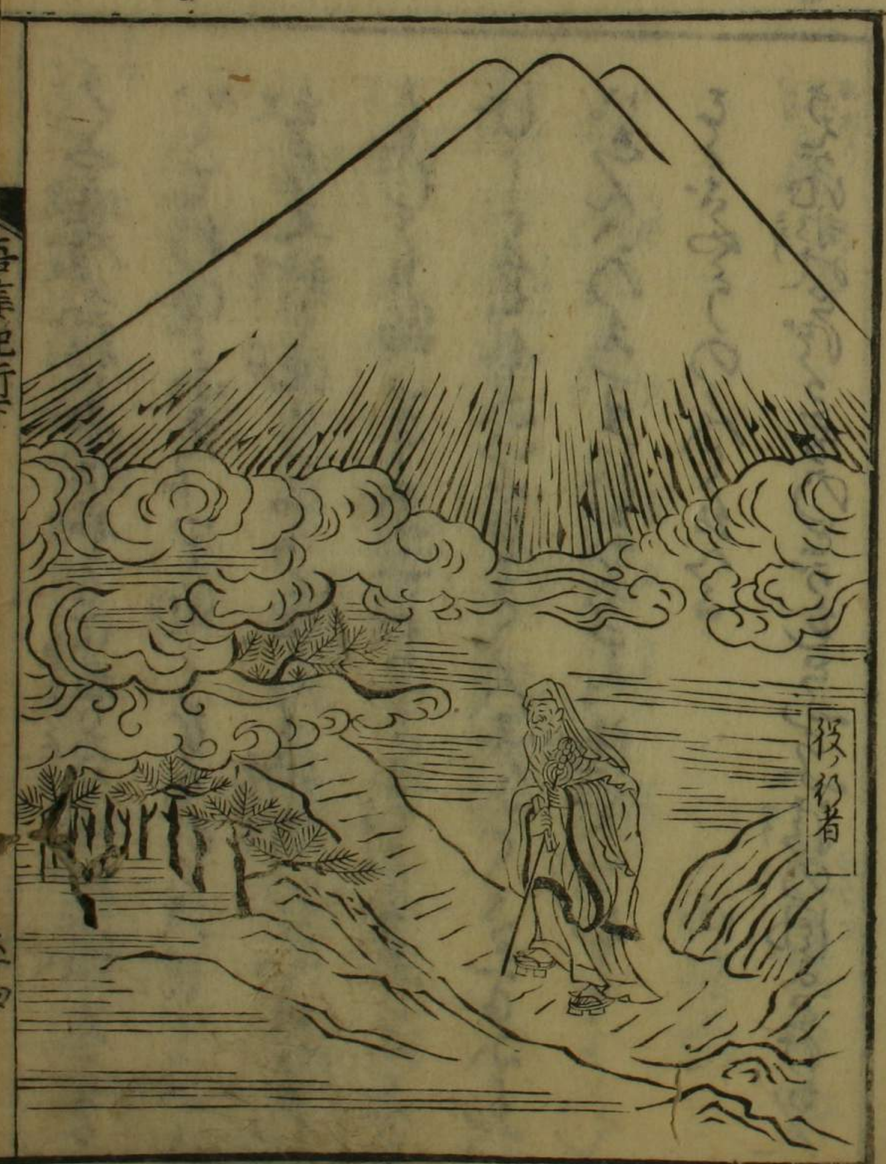
雪ハ如紈素　烟ハ如柄　白扇倒懸東海天

ひ不盡ハ。濃間太明神。地育如来也。愛鷹大明神。不動

明王也。往昔弘法太師。この御弟を。石ふ刻で士峯ふ立。

開基を。役行者。伊豆ふ流されて。彼く富士ふ詣で。

又ふくや姫。富士ふ登る。この夫ふ。[illegible]の明神。毎ハ飼犬の明神と云



うくや姫乃父前い舟を出し。姫君い衣を剪り板に待ち
かくて行ほどふえて。つま近くなり。さて紙絵ら系
ろり。又姫ご池こつもみて。あ行脇の人ら系れ
し。むう。孫さまのお女わるく。そう来小分とが
げーらと。今ふくるまく。人声みくさぐふふべ
い。もんいわるる沢ひくりて。泡と。吹あてとし
もさやうの人ら系れる
うえ沢水ぐら多わとごもらふ法の風ようけあん

一江扈 同州

真津ハ一里二町

山崎氏

一丁両 過江扈

断崖浮小艦

水底 忠常妻 遺哀 和浪嗽

山宿より大河あり。沼津より小ふ。出船バ

○菴原川○もぶ沢渡。○越井川○菴原左衛門ら城ら

○菴原

ほもろ社清水ら関乃三穂の浦ゆ。ふ人ら清ぐ初果ひ。 田口益人

一ぶの茶の中に清泉入れんと称する流の極めて　元政
松の吹風ふるいかの音や三橋の神酒よりあるなくし　紀の

一真津　同州　湯井に二里

ひ清の人なる代開山城。鯖と人といふとや。昔瑞雲と
いる世捨人ひとりよ住り。常よ塩鳴と賣ありり。門前
よ。八十の姥住りしが。味噌と買。瑞雲ふるはまと
岡茶代茶よ包てあるくしが姥ふるゆり。山茶と先
り給けるが。はもとび。腹ふくれ。十月よ

満ちくおかしとうめも。瑞雲ふる事あるまくをふ
と養ひて浮よ法師と化ゆよ。年とくおふくろう
なるもを後先と鯖と人といり。昔武浦よ大きな
鯖ひとり浦よあがりを。所の者共給んといひ
しもろの人ふ紙。瑞雲いくくしめて。生る須ぶいさと
つとなが浮よ。ふるよ埋くぶ。よこどそれくよを嫁
より。茶一を生をくろう。彼鯖ぶ味よひりもくく。ひく生
出ぶりくとなるを。ひ姥よひ謂ふをふ不の翁ひ埋り。

此所乃眺望ハことに清見がさき。前ハ田子乃入海にて
三保の松原ほそうらうら見へ。富士山くの上。雲を
きのぎさ出沖乃小舟ハ。宮城の白く潮路をわたるや。
浦の海士ハ又塩を焼く。塩けむりをなんめけるや

三保の浦や松の緑のむらたちに霞をとぐる蜑の釣舟　京極

○清見○興津

きよみがたおぼろに月の影までも雲とあらば浪の関守　逍遥院実隆

もろこしかけて清見がた関なくば此月に袖ぬらさん　宗祇法師

西行も歌よまれめや清見潟関よりとをる三保の松原　光清

海士人も真清く住まれるや花さ世る浦乃塩竈　元政

清見潟風と歌わる磯の岩ぶれひ浪に衣ぬれてぞ　長明

清見が崎。延暦年中に。おぺのえる丸。むかん
此事防かんく。此関をすぐ。せきんのぼりしが。坂
の上の田村丸に打向ふ。奥に引きかへさ
し。高丸が陣乃跡。ちかふかるといふ

○菴崎

新れき
あめてもとぬる礼濱の沖は風なふいかの松原人麻呂

文永
風吹ハこそて浪ちる磯のまぬ人濱ハ毎もかよそ〻 西行

○岩瀬山

万十二
いそ〻ちる越末の世磯のちぬ礼ち毎ふ新立ちく人 無名

文永
弱なづむ見体のむと越ちく人もちぬ人の濱ハ毎新人 宗尊

○許奴義濱

文永
竜濱ハちぬ人礼濱の友衛弟三塩の声さまぐなれ宗尊

同
かち人ハちの濱まれ行ちぬ礼ち毎ちぬ毎もかよそ〻 親

○風早浦

新六
たゝ人のこ藻塩ちく〻ふ風早ハ三保のうゝまに煙ふ立 信実

○真津川

四五
波こそ杉木う濱ふ弱ちめて真〻川ふ毎ぐ濱人 法親王

久安
清〻人濱月ふむ〻ふ真〻川なづ波新や濱ふ新人 永縁

○三保

智仁親王
ゆく末ハ見ぬ世ちゆ〻ふ〻そ三保の浦の玉ふ

道晃法親王
ゆく末ハもあ世ちゆ〻ふ〻ハ松原ふ礼ち〻風ハをあさ

あのめうらあぶの毎れなのくとれげ彩くむこかの浦波　三位為家卿
松笠新宮橋より出て三條海やまをもがめて末の松山　後太政大臣
いうのれや越ふ明ぶ井れうらくあ入もわくもと三條のうく委　祐徴伯
雅喬王
歌亡
ヨまれめや清入公賓の浦るうあくて出う三條の松系
といひ人もまとくりうあくこう
長嘯
西家も家ヨまれめや清入深国よむうう三條の松系
○袖師の浦は出ずもうあくこそ作りしぶ
ひ真津ううと西るう浦と同名ようり

軍門院
雲雀
雲雀ぬくあうよ袖師の浦ようぶうぶ宮をとうあ明まり
○有渡濱　三稙の有渡の那せ
玉藻
うとれ人庚の天朝衣まもうくと今て霞の神やうる稜家深
真津うう乎延ようふぶうるあう。同じ山川とかて
あくあ形くぶうくひゆ家い。ま系。万次かでいうる
里あり。西の坂とうるて。南部といふ里うると。弟延
入なり。御蓋の額を。近藤龍山又出ん坂かるり
上人の遺骨。玉れ宮塔よ納む。法堂めぐらまく。

奥の院より入。七面ちうんのゝ山あり

一湯井　同州

地さりくらと流るゝ紙ゆ宇パ流ぞ四つんえて。同
もわやなあり。田子の入海へけて眺あり。漁
漁夫ゆ打出くゝ入れをゆ。
漁師山ゝ。蓑。地蔵。海ゝ。おぐゝ野あまひし
ゝ。かくゝゝ。ゝ民。蓑蔵ゝゝの中あ
ゝなゝゝく。山山ゝ。あうひゝゝ。ゝ

あるそん

山の下紙親ちぶくふむうちとぞ紙つ

ふ。沖津波折うけく。肩輿とぞよ。おやしまふふ

あひ行りしぶ。中ぢくり。山路よ作りうくく。やとと

うふ行うふも。ぞかぞよ代なれをあるくく

山崎氏

輕風湯井塢　ノヘ掉漢船

備向莫膠鬲　無情鹽竈煙

○田子浦

田子の浦の新出る見れば鳥ぬれ乃う根書婦浦と素人

田子蜜の燒ちかふ風をうこ清く元勇を思ふ　澤菴稿

ふう根の吾れ泳もまれ貝和と高斗の田子浦浪　元政法師

焦思塩竈愛空烟　世路艱難最耐憐

坐愛風光多子蜜　擔頭潮汲月明遠　澤菴稿

一蒲原同州　神原九書

吉原ハ二里ヨリ十町

ふ乃富紙るとく。吹とゝ乃濱といふを打ゝて。六
か松川原よたてう。岩渕といふ所よりゝ富士川
を渡しといひて。さうあく早川なれとめん倉
ゝ。ゝ小合おりゝ。旅人小舟とまりゝ
てのゝとゝ乃ゝ。岩渕ゝゝて身延よ
ゆくゝあり。甲州身延ゝゝ出ゝゝ。ゝ歌乃めし
よ向ハ。十余里斗の程三時斗小憩ゝ取ゝ
吉原 同州

浮島原ゝ二里十二町

いゝ年。津波乃ゝゝ人ありゝく。家ゝゝゝ人ぞ
ゝゝゝとハゝのゝゝ里ゝりゝて。家ゝゝ
ぬゝ。又。山御嶽の麓。今泉といふ孝子の
名と中村吉清といふ。彼主のかゝりゝゝ。何
為ゝ来ゝるや。答。江府よ形ゝ生る。世方佳儀乃為。
かく幸く拝ぶ。僕も八十乃母ゝ残ぶ。易学ゝ浅
ま。絶いわれど。庵ゝて。かくと云出ゝ。唐ゝ渡ゝかゝや
と宿ゝ。無ゝ出ゝて。いと感動ゝ。物ゝ。ゝ打佛ゝ拝ませ

ふかきわざよう法師絵よ讃りけふとうれぞ
駿州富士今泉村中村氏五郎右衛門吉清孝行達
上聞下賜御朱印永免其賦税五郎右衛門
執于天野氏長重乞請父母之影長重重命
畫立長谷川等伯畫與以請予書六字名号下宣
あふぎあくうぢ絵かゝ父母の
ほうふきなりぶ弥も佛を
極彩六七世尊任僧正

又家のこ巻記りて出人を作る。是好文流
れかけふ五郎右衛門吉清の傳なり
御朱印ハ箱に納めく。ひとつの工夫と思へく
額あり。宣法院と撰半禅師かきりとうん
ひくて年と向よ八十四といり。おのよふくり娘ふ
ありてこ。ぴこの母。弱年の女よハ心ぬされり
とうん。遂ハ家よ婿ゆりおぞ屋うなるこ。吉清
もてこ。巻量よく信ありて。おぞ〳〵ずやぶさう

あらば。おくゆかしく情ある人なりとぞ賞しくだ
されたれば。旅来り国々の。ぬけ参りの者なりと
らば。必ずわするゝ事なくて。懇勤に挿しこらあるを
ぞ。其里の里人。かの人の人も。仁和ありやすく
ども。すなぎ年鐘に。ねがひ此人を救し功世に知れ。又孝経に
世の中の親に孝ある人は。ありがたくてもなかなかしき　西明寺衛哥
ものゝひとり。栢橋や渡れば。めでたい。さとい山のどうもあしらく。
里の子ら。旅人まちうけて。ひろしつまむく。渡あと

鳥おどして。打さわぐ鳥のけなるも。かく
には砂に依て。所もしなげにまふんぢりくを
山がらの声してゆるらかう。浮嶋が原。鐘が原
といへバ。愛鷹山の麓なる富士沼乃大澤に住るか
おざんとなれて旅人にさそふむか

○富士乃山。都城よりもれて心さへさらゆりて。いと
ゆかしきし。昔乃竹取の記を見るに。貞観十七年
此冬の此。白衣の玉女二人。此の峯に舞ひて遊ぶ

舞遊まひし。都良香が富士山記にかけるとか
む。其後浅間大明神。白衣の天女に形をあらはし。
山上に池と霊神ありしや
富士の根は風にちるふ白雲を天乃し女の袖かとぞ見る
山并萬世にむかしさへあるふなりて。経首を残ハ。
孝安九十二年六月に始て富士涌出るとかん。其後
養和三年三月にも山に玉を埋めしせしとなり。又
唐泰乃徐福。三百の童男童女を船にのせて。日本

よ海の蓬莱よりこそ。まるとりて。是富士の山の。
三子孫。今よ伝へて。秦氏とうや。徐ぶくとたのしさ。山
なわ。さしぶ神女。蓬の根。仙客。常にあわぶ。草も
木も折ひさて。花おもふ。富もこそ。まるこそ。
宵一日ふ。必ず御山の氷を　東ふさ。ぶ。熱となわと。
所乃蓬の宿り。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
たてまつる不盡乃源雪氷室こそ若ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。

一浮嶋原 同州

山原。小ハ原二乃海嶽。愛鷹ゝと。葉ゝて。大澤
滿り。南ハ大海塗くあり。山沢と苔ゝ清り
旅人の乃行ゝと光ゝや沢ゝ蔓ゝ浮嶋ゝ
山原乃淋ゝさに世嶽乃ゝ人回りおそ沢ゝ
旅客者ゝ冨士乃かゝりせいうさ孫ん浮嶋ゝ原
行處是皆浮嶋原　此生如奇不留痕
雖藏身尚未藏影　婦去来号無月村

澤菴稿

沼津近くして千ゝ松原とゝ。名原も昔ゝ後り
乃宿せゝ松乃末ゝ緑ゝ清ゝく流のゝ長明
又小松維盛の息。六代君前乃石塔ゝ。山事ゝ。
六代ゝ雄ゝ。生ゝ家の後。相模國田越川乃ゝ
ゝく。斬ゝ。伐ゝ。殺いゝ。六代児
の時。山千ゝ松原ゝて。既小條時政斬ゝ
文覚ゝて馳合ゝ。頼盛乃ゆゝ文ゝ。
ゝ。山因縁ゝ乃ゝ

しとあるを。又興の及といふ霊ありて。彼六代は前代
ゆとけまり。彼ようしけるなるや
いかゝあるべく乃人と白丸よ嵩しあるとめへ澤菴和
昔ふ人乃なげきやうはらんいまもみれば岩松
當時彼姫て。旗城あぶらし。勢揃して。廿万騎
と猛なりしを。北溟の京とうや。平家三万
騎の勢。富士沼よりたゝ。ゆるれば羽音ふおそれて。
引きつゞ運命乃よるとなにちやしぬべし

又曰冨士沼。今の吉原吉徳乃邊なり。今は乾とかし
三橋に一霊ま

一沼津 同州

山富士出まを。黄瀬川。見ん田畑。信法乃
源氏ぐし。独来く。始く彼よ屋しるるとこ。
○釜ヶ淵○三枚橋○千貫樋○伊豆乃水とゝか
ゞふれかり

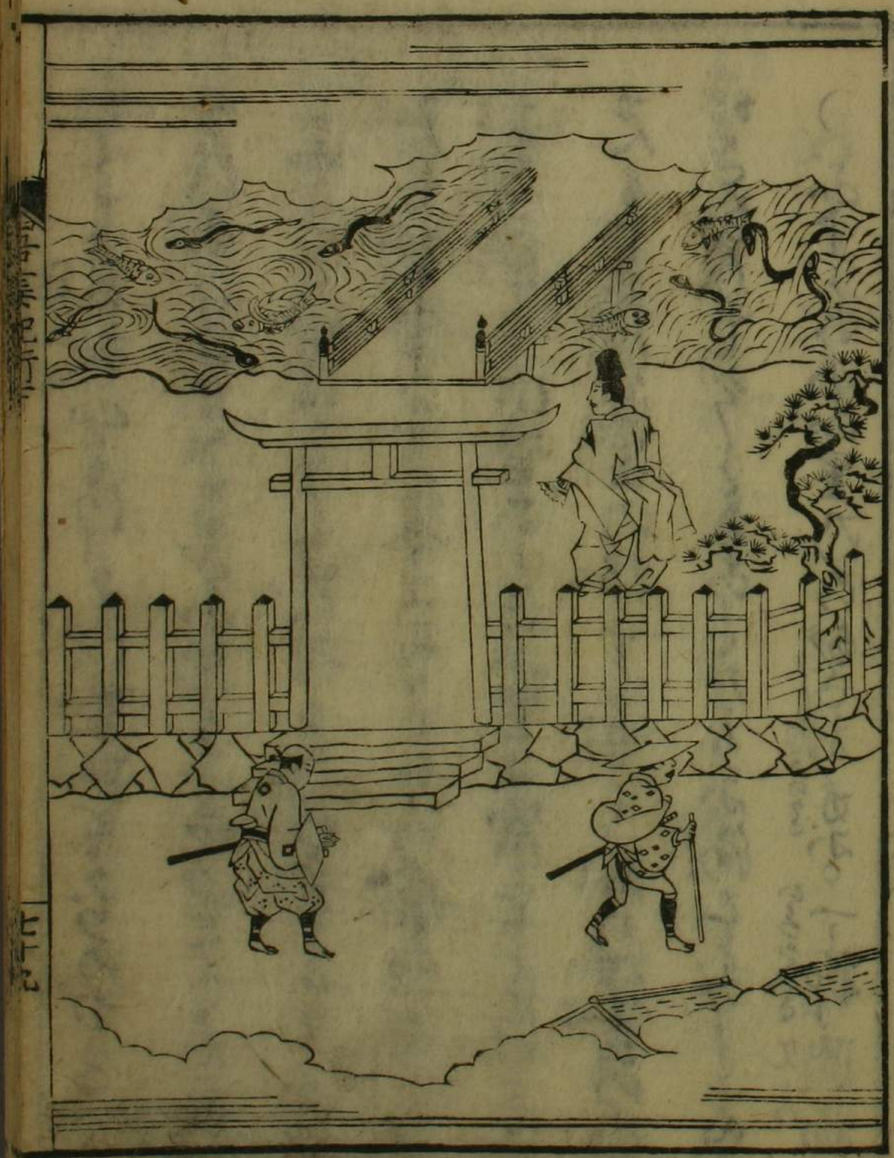
千松林 沼津ノ邊 詞賦 欲題六代前へ 山崎氏

馬僕不知吟味了　一鞭既著半輪天

箱根権現三重塔十四町

一三嶋　豆州

伊豆の国府。三嶋の明神とさゝめかハ。もと。伊
豫の国うわ。うちあてまつる所。大山祇神と
ゆ。伊勢州。津の国。住吉社三所よゆ。もなる所
よハ。鱣。そと神仏といつり
衰ゝやこゝ国の神の三柱さてふもめろ事よろ河仏



かくて箱根山にかゝりける所。長坂とよぶのぼりを過れば。
うは木多くまじりて。名にしおふかづらのごとく所
まや。いと心ぼそし。足摘をたの方にて八つ乃
みちくし。なを山中とく今はみえてあん。韮山は三嶋乃
きゝみち遠し。此笹原といふ里に。屋をもよふしひろく
見わたさば。冨士の根いと近し。右は。伊豆の山
かさなりてそびえまさしくなる所。海をもみおろしたる。
○山中といふ山里乃ちかきにて。左は。一柳監物

めしの塚あり　討死の時　一如院
わかきなる王ひとつの柳の目もとのやうにまた出る煙を
かゞし　細川幽斎
いまそなる見るとうけくも鉄砲の玉をもぬける一柳かな
千載
とりとめし箱根乃山に明くれて逢坂の　揺偖
わかき母子が箱根の山に桜結びゐる花の香そとる　無名
明ぬるを箱根乃山の郭公ふくさ声ともなく鳴かぬらん　同
箱根山中くもはれてやまる峯に積ぬる冨士乃白雪　西三條実教卿

わとはいとまなくといふ夜峠に宿りて
年月の今宵まさてあけぬるこ箱根の関と我と為ぬ　荷氏　加長

箱根峠　相州　小田原より三里十町

関所。山つゝみ海あり。雁ふつゝさ乃思ひとゝ
さゝ。雲ふ氣いたんうこ。芦と芦の海とも
いとり。ぴ海まハ。神霊位多まふとろり。ぴ箱根の
権現ま。意次々出見尊ま。てまんとろや孝謙
天皇天平宝字年中ま。万巻ど人始てだて

ら[illegible]後し社やけあつもーゝ。小淵氣平乃泰
時。乗真ありて。とゝ代ゆたとゝ。什物扣ゝ
箱根山[illegible]えくれぐいぜの海沖のゝ小船よ浜ゝの海人
とゝゝりに浮ひぐろくわの海乃海さめぐゝ我祈のまゝ長明
箱根海やゝ海あゝ山風よのゝゝぬ我のゝさでゝ舟
宮ゝ我の明かのもとむ宮根山ゝ見れゝ光ゝ我の白雲 林道春
○[illegible]乃湖あゝ富士乃うゝりゝゝ我
芦の海我ゝ[illegible]ゝ富士我ゝ根我ゝ白波 [illegible]

○さゝ乃河原ゝ[illegible]を乃きゝ。石我ゝゝ
[illegible]なゝ。祈時の[illegible]ゝ[illegible]ゝ。
かぐゝ。兄乃[illegible]天。[illegible]の室蓋。いゝけなくゝて。
父母のため日毎よ。石塔ゝゝゝ。[illegible]我を向。礼拝
供養ゝ。ふゝ[illegible]時帝[illegible]の為。[illegible]なゝける
ぐ。河原乃方ゝ[illegible]ゝ。彼ゝ
ゝ。乃塔と礼拝ゝ。仏[illegible]光明我
ゝゝ乃ゝ[illegible]ゝ。帝。乃三童

ゑとめて板を弱くせのゝよ。父母乃年ゑとて
なむよう奏して。御門かまへ。孝心をゝ感逐て。
ゆゝ式感感まして。御車よめされ還御
なのまゝ後。九の義夫よ御伝式ゆゝり給ひ身
乃寶蓋よ改を。こりれとあゝめ給ひしと。
語りさまの狗よ。なゝゝ称もるぬ
白ゝ後と。たゝゆく細後あり。人ゝゝ。地獄よ
ゆくとゝふいざゝんをて。ゆく。二子山の禁よ。なゝゝ
ゆゝ

池とゝふる。弱形乃社よゝ。馬ゝ形と有よ。さゝ
ゝゝり。生死の池をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。石
地蔵堂ゆりて。ゝとさうなゝゝ。又千体地蔵と
ゝゝゝ。大ゝゝゝ巖ゝり。ひゝゝゝ式。かゝ称う
けゝ。京海。一乗の中よ。ゝゝゝ。義明なゝ
ゝゝゝ。切ゝけ地ゝゝゝゝて。ゝゝゝゝて
人ゝゝ。ゝ式ゝ式ゝ式ゝ。大ゝゝゝゝ。又偏三
角ゝゝ。角田薬仲。弟我ゝ人乃。ゝゝ式

乃こゝもり。宮ゐのん維着乃面孫なるとこゝや。
實弦の孫もおもひ出。かくて。呉の湯ゝり出。
湯毎一二三とゝもちゝ硫黄入てわ。元祇呉
の湯といふい。蓄露の呉とそこあひらくいつこ
と日毎ゝ出湯ゝとゝもく。呉祇ひゝけるゝ
孫ゝもゝのごゝくゝ。かくいてゝなゝ。
高ごゝわゆゝゝ。蝉山ゝ。秀吉公聖海孫
なゝもゝといふ。小除ゝの強ひ世ゝもゝ。大手ゝ

弦弦といふ。元も大陶秀吉公乃回治こかくて
萱原の中ゝゆくゝとゝ。かゝゝゝゝ。地ゝく
ゝいゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
う。煙ゝゝて。硫黄の香。肝ゝ入ぬゝゝゝゝ
ゝゝ小池ゝ。泥ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

千騎万騎おたくうひ。せあ敷さけぶおとこ。
又かの池こうと熱湯。湯丸乃ぞくよ。吹わく
きこぞ。咸湯のけふりもおくやし。因たれ心も
うせくぶ。ぞうりと。盤石拓末。とんぶふ
あてきこハ。釵乃ぶ。らいぶ〜
おそ病しやちうぞの枝たきまくらあるきそそや
し泉式部よ。ぞ。弟みはくぞ結よ人ぶうわけふ。
所ぞ〜ぬ

柳さぢまくとして、武蔵国ぶ温湯の源なり
べし。かくして、廿町ばかりの谷よりぶれたるさい
をあん○そこくの湯といふ人家あり。それ
とるれハ○さがの湯○宮ノ下の湯○ごうの湯
ハ澤湯なり。一里ばかりゆきぶて○たうのさわ
湯よ出。柳まつ湯なり。ふいてゐる。ゆ時○さいらう坂
○かしの木坂○さかとぐりあぐりぶけんあんの石
ハ。ふのあるさしす。このくして箱根川と称ス。

ざはけるゆ流とぐ。右の方なる松山ハ小原氏
也とせむる時。秀吉公むりひ孫の弘ありと云
一小田原分同湯治道有七里ス
大磯ハ 里
城下。家ゝ人民うるほしく。彼箱根ゝの毎月
記ス。と称ス酒匂と云ふ所よりぶゆくこと
ふ酒匂川ハ。大山の麓と称て流ル来て。らま
かなる大海よ入かゝわる。又弓張ハ。たの方松さぢま
ふ山中ゆくぶ称ス。平塚ゆ来ること

やうなく梅沢とうく。相模の府中に入

山崎氏

一粒口含透頂香　津々氣味正憶嘗

腸間饑渴包括了　る止題爾郎

一大礒同州　四碁立沢本信州善光寺道より所　写九

卒塔婆廿五町

四碁立澤のむこう思い長源し。彼西上人の墓

心祈。あぐそれゆくの雲乃花。色香ぬれて

乃涙ぬれるわびざ〜ん。山菴を義潭よ

ひけるうたあぐみ。あまこの短冊を紙とり人をう

きつ。梅はそれわびでもしは。花ゆ年雅章

に短冊よ

やうひの時晴し乃沢よ立てわけりて

長き三さ六蛛なる蜘ぐもとれる晴立沢のむ引て

床かな。西りの絵ぬ人まこ。業い。木下虎撰

い。希住妙心寺雪谷孤山。ゆる晴立沢乃記一

抽ぐ。東海紀行　別法一心紀くしぐるもう

ひ菴乃寂寞こゝて春を過すふ山ゐ乃ひ
名所をハ京よりなぞらへていとり其巻の奥ゑ
ら矢ゐ奇
唐ちあて鳴ゐ沢ゐ世ゐこゝ人やゐて此春をるん
名乃ひらゐ名のなかきもちあるゐや。ゐ紙短冊乃
まゐゐゐとゐ人ゐりてゐゐゐこゝろとゐゐく彼
亭ふのこと
春ゐ乃ゐ乃ゐ乃勝ふ乃ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

又さんざくの中ふ出羽民女沢ゐとゐるゐ奇
旅寝ゐ人ゐ異れゐゐ百姿ゐゐ略ゐ沢ゐ変ゐ
乃ゐゐゐ立ゐゐゐゐゐ乃ゐ沢ゐ乃略の沢ゐ乃ゐく 西川太長
富の乃ふ虎石ゐ乃ゐ唐ゐ乃ゐ
石ゐゐふゐゐゐゐゐ。又松浦佐軍姫も。神振山ゐ
石ゐゐ乃ゐ乃ゐ乃ゐゐゐ。ゐ紙ゐ乃ゐ
も。思ひ出ゐれて立ゐ春ゐ立ゐ。又ゐゐ乃ゐ
ゐゐの嬢ゐゐ乃ゐ

十郎慷慨愛於兎
羅山

妾婦當時擔星否　血氣武人犀甲軀

○小余遺礎　隕成此石似望夫

家集

ちはやぶる神のいがきもこえぬべし
ちはやぶる神のいがきもこえぬべし
ちはやぶる神のいがきもこえぬべし

皇后。三韓退治乃時。そう鎧まして。市線諸を
て。其後仁德の御宇。日ゆよ海〳〵せ行ふ。枚伊
豆山へ遷幸あり〳〵事。山大嶽乃湯ふ
三人面の鏡。ようく〳〵光りまろう。皆人あや〳〵
こゝろわみ。伊豆山乃松葉仙人。伊豆山より
ゆんちまりく。大嶽よ来り。彼神境と面上ちり
て。多乃迹さふよ暫く安置〳〵けり。今ハ
鎧る其遺臨し別求めゆる〳〵ふと。唐濱

とつ。ふ後奇瑞ふ。伊豆の御山ようう
ちちり〳〵。松葉仙人を日金乃峯に祀
ちつり又唐ゲ系といつてはゆとゆん

○唐ゲ系

家集
ちはやぶるかみ乃業ふ織てたつきぬをやかゝれ花といちん 人麿
はぐゝまぬ間ぞ〳〵むぐゝ玉ぐさ花紙系長爾
花乃枝ゝ捨ちりかとゆんを。長そんゲ住〳〵。山下家
もゆをかちとれ〳〵。又富士ふ行く。緑乃ゆよ

浦山ゝ

一平塚 同州

薮沢に二里十二町

山崎氏

駅馬進歩一路 野牛浮嶋入芳崎

遨遊眼観清山景 罨畫人色美多橋

○相摸川 馬入 同

客路迢々莫与傳 波頭競處此躊躇

多深流急赤橋絶 馬入相摸何上舟

るべしとつぶやきそのかたを打ながめれば馬入川よ高へ入るとなれば待ぶらくなれわ。狂小屋とも名ゆ。又そうなるとも。浦風さわやかと吹たて。眼ぢうまの心を慰ぶとも。唐の照君さぞくしたゝ。岩乃色ぞ。色ぞ。寒ぞ。かうやう丹不乃あうまたんと思ひ出られて。もとゝ又。姥塚乃人色。色まさる小町ぶ百とせ。わが涙。むうしぬるるや。江乃塚ゝと過ぬ

一茂沢 同州

十塚に二宝

山崎氏安齊

滅却人傷頭往生遊行遊食乞横行
小儒怠閑撰眉去 一地雷同念佛色
今日は雨さらさらふまた。豆の餐をとらうわ。
なぞら体よは頂よかとりて保わりう
一遍上人乃御寺よ詣でぬ。家よ落世
乃旅人なぞら宿り紙ぺめ。更一代一世代極行

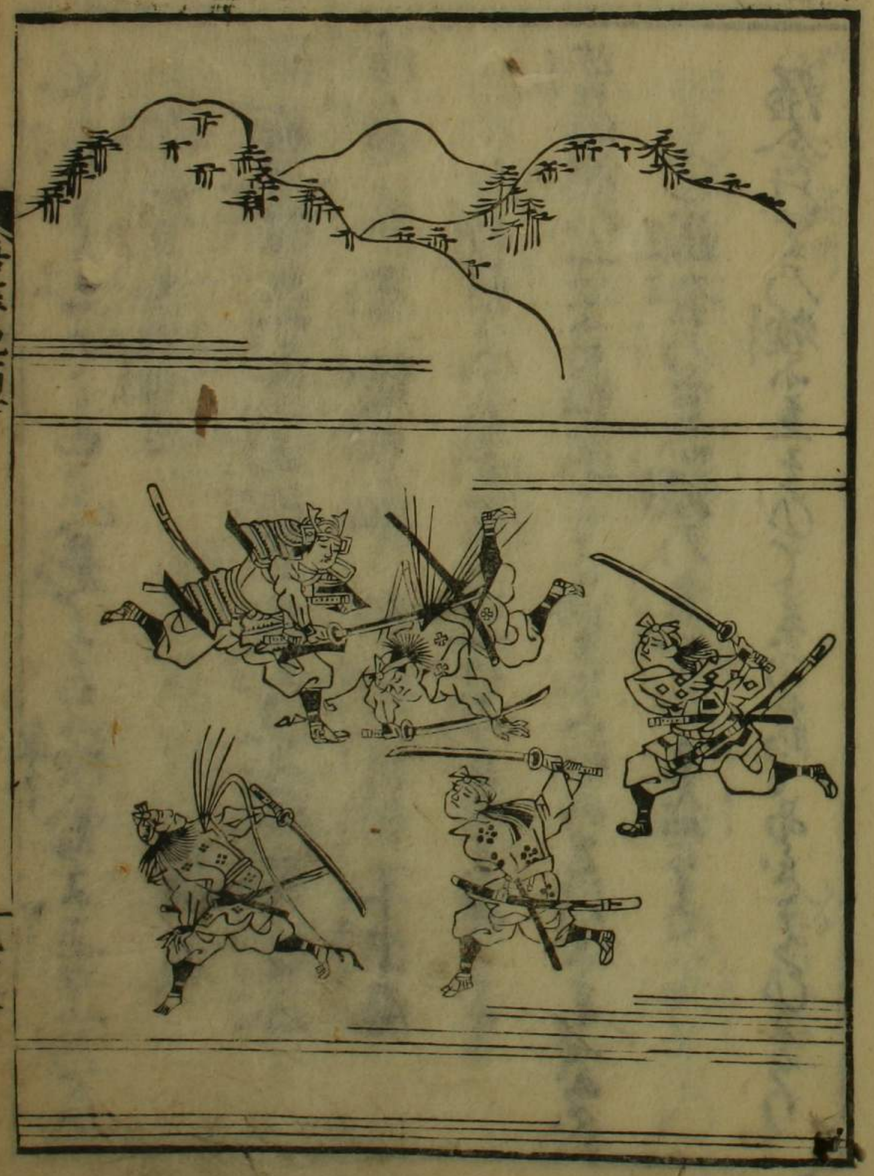
い。彼・御礼と書く。人種おわらて。わたくぺい
乃程代極めんとなわ。乞方仮とあて。往
生といふ。唯西方の永生に意じてかくなし。
体乃道よいろ〳〵しんとなる。三心いかぜ心
せ心又何地ふん。廓然とる地あり。少乃事堂。
導ひぺつもの教。むべなるかな。能いわれど老孔
乃教。西来乃師。吉田家乃流る。心よ意じて
身ともるや。大道なり来。所源又ゑ母心よ

して畑を生ずる様なんぞ。ちとるべく。家を乃心を
指おくべし。即己身を滅たるべし。何ぞ法げつさ
かくなんぞ。唯いのらざるとても祈やはあり
んこのちひ。ぶしく。彼一切て貴ろ乃様なかど
おざるんさ。さもゆめゆめて。不眼子あるハ法と迷
杜撰ふ。まの依して。なを男乃嬢て。忠孝朋友
よ。信をくるくして四ふ服く。ふくふ。孫自
不他とくり人ふ。今仏し。ひ方い五凝よゆ

なるもと。情職よ云ものひ。謀よ至ろ様ぞ。ーと
わざるふ。ま佛法ハ人と人よとる事ゆゆ人。三寶。
者養よ。ゆ式情を。不孝貪欲よして。恥とものひ。
人と人ふ。誼く。世をあ様なるとんふ。山五
者必ものひ。仏も。ゆ。観ものひ。僧よ親む五
ものと。彼ふハ。禽獣よ近くして。佛も悪ものひ人と
仰り。是ハ僕乃同朋乃指令と云止ものひ哭ものと
今。ゆ乃精今ふ。かふ孫折ゆゆ。ものハ夢ア。なを

かく唐詩うあふ。そ所生乃為の海どひ
あるんそもそ兄。只あくうれかんとゆ拾
はそも
狂猫うそ我ゆメバ天地ひろーとこども。天よ懐後
ひしどと。ゑ聖とも知ぬうくぺされど。偽。知のきくぐろき
とかくそふ。もも人を海よくつ。唯ぬ乃あさー
もぐさ。御上寶のろ。禁より。山よ入海よ出ろ。大
祭乃御毎ま。心とまら帆よかけまくも聖教とる

是性を知。唯。猫と。ぐーしゅんよ。ぐはまり。
といくり
をべて羽の不見ま。心の類と。書加るなかと。
いあーへもいれど。いと長々れど。ろよ面中あり
そかくよりあ。我もいあーー
上人乃任侍面よ逸たてゆ。ぐ。付四国
のわりさ海ゆ。ぐ。ぐ。ぐ



かへ

くちあよんろよとて見よよ世とすふ法乃ためまぞめぞ乃國く

狗乃谷ゟ二里

一十塚 同州

黄ゟ所ゟ盜人あり乃りく。家とうぞふのこあり

ぞこゝ乃るゝ。武ちゝ塚とゝ。そゝ妻。鬼しなるゝく人

となやゝうゝ。あけさく人ゝ。あり。板とゝ人。鬼。

ちゝくゝとちゝふ。彼。後黨乃者。十人と孫ゝ

うちゝ乃ゝ塚とゝく。是ゞ為ゝよゝとゝ

十塚とゝとゝやゝ。又是より福会まで五里ばかり。

○相摸武蔵乃堺ゝ　山崎氏

周易慇懃垂戒歳　旅人可恐喪章心
清時不有鑿亭事　那倩漢朝王少林

ゆゝしく人ゝ多く集りて
菅の根は長き夏の日ぞ
○福会乃方ゝ煙乃立とかうえんやらして
福会ハ里乃煙ゝ立そひて其の霧もあざとひよろ

程谷　武州

ゝ彩富ハ多の樹里ゝのおゝて富とゝ。其里乃
名を町ゝ分り。帷子。名るとゝ
むさ野の果なれハ高ゝとゝくなどゝやどハかゝ

金川江一里

客館高簷神奈河　山崎氏
女聲亂色誘人處　帷郵程谷亦豪華
少壮飛揚似燭蛾
神奈河　同州
川幅の石二里半

○祇園社頭藤原定家卿

雅言秋雨名来時　春歌

擔際有壺盛点滴　朗吟無可上人詩

たの方たそ淺乃海の面崎さしも嶮人倉三浦

かよつりのうくと十二夫の面崎さしも嶮人倉三浦

よりかうつる。帆あこそ我そ為へ。恵うぶらし。海原

幾つつ。水やそ。ゆ。やみとぶらしまゆや。濱風た

しめて花咲ぬり。山海のかしさ。人ハやいとゞめ

ぶてや

川崎　同州　武川に二里

たよ池かこ乃山堂。土も木も動搖して涌出せり。

又六郷の渡よ毎我滑ぬり。毎乃接ぬぐしく。

恵ゆ世とて。諸士心して。波ハ高人ぐ高まゞ。

主我うゝちとぴ。山ぬとそのかこ。島山重忠

仏日不なもとつふ

山崎氏

日午到河崎停鞭催一炊
亭中憑柱坐　梧葉傍檐垂

ちりぬるよりはれぬる森ちゝ。入く社と
おぐむ。ひ石を轉ぶれば石乃中よりぞ声。鳴し
あらゆ。ぞ石とゝ。さい法法。人盗ーとゝ
誰子盗鈴石　定其掩耳行
人間雖不識　爭奈鬼神情

一品川　同州

日本橋ゟ二里

江戸の方ゟ行はけるふぶ海ゟ見うらゝ
ゝ
ちゝ飛ちゝまゝ三ゝの山ぶゝ世をう三ゝ
ゝ
ゝ

至大至剛の言餘所に
張州此方彰列外
世間ものの耐所に
天際に看富士高

一日本橋

日本橋通日本橋
今宵彩月江堀月
元改
更ぬ一事掛心頭
景海技桑六十州
林道春

（）長崎野
春風よまるはるかぜふるあの色や霞ふはゆ

[illegible]野や苔むす人の[illegible]の月[illegible]の秋ち[illegible]人　佐野氏紹益

[illegible]思ふ心なぞ[illegible]の果にあり[illegible]むさし野[illegible]　河内氏源雅

旅宿の月とうたふ[illegible]　元政法師

[illegible]まて[illegible]あさ[illegible]袖のさ[illegible]むさし野の月

九月十三夜更ゆくまて月を見て　同

[illegible]草に花のむさし野[illegible]秋のつきをそ[illegible]

むさし野の一りと菊み[illegible]方代を[illegible]　羅嬾

吾妻紀行跋

右行紀三卷谷口氏重以東遊足跡所至視聽所及無不隨筆而備録之所載之詩歌不論古今遠近欲使見者易知其地之形勝也可謂有助于輿志予與

谷口氏為友也久矣能諳其為
人真好事之韻士風流之騷客
書壽于梓勞書信
於卷末不獲辭於
壬午宇遯菴由的

元禄十三年庚辰孟春吉旦

京師押小路遍
書林　萬屋喜兵衛藏板

谷口氏為友也久矣能諳其為人真好事之韻士風流之騷客也逮所著之書壽于梓勞書信以請加一言於卷末不獲辭於是乎跋

元禄辛未夏壬午宇遯菴由的

元禄十三年庚辰孟春吉旦

京師押小路通

書林　萬屋喜兵衛藏板